

## 第4節 安全で快適な生活環境の実現

### 第1項 災害に対する不安を減らすようにします

めざしたい将来像：

市民一人ひとりの防災意識を高め、自助・共助・公助の災害発生時の対応体制を確立し、災害に強く命を大切に  
する社会を実現します。

#### 指標

災害に対して自ら対策を講じている人の割合

#### (1) 指標の説明

ひとたび大地震が起これば建物の倒壊、火災、ライフライン等への多大な被害が発生し、人的被害が拡大する危険が潜んでいます。これらの被害を最小限に抑えるためには、行政による防災体制の確立を図るとともに、地域住民の防火防災意識の高揚や自主的な訓練など、日ごろからの備えが極めて重要です。そこで、災害に対して自ら対策を講じている人の割合を指標とします。

#### (2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・行動」

Q15 あなたは日頃、防災のための準備をしていますか。(あてはまる番号全てに○)

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1 消火器の設置      | 6 身内との連絡方法の確立  |
| 2 住宅用火災警報器の設置 | 7 避難経路や避難場所の確認 |
| 3 家具などの転倒防止   | 8 防災訓練などへの参加   |
| 4 水や食糧の備蓄     | 9 その他（ ）       |
| 5 非常持ち出し用品の確保 | 10 特に準備はしていない  |

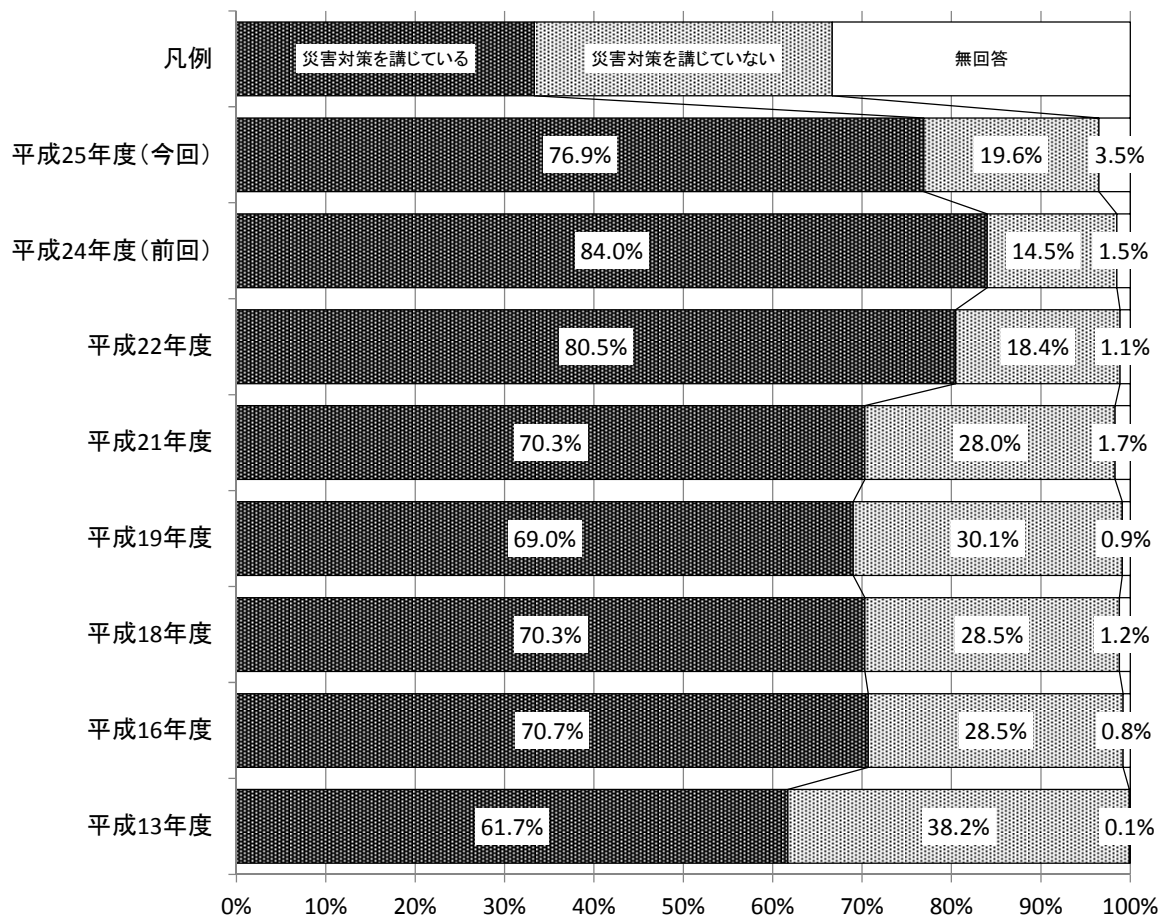
#### (3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度
災害対策を講じている	61.7%	70.7%	70.3%	69.0%	70.3%	80.5%	84.0%	76.9%

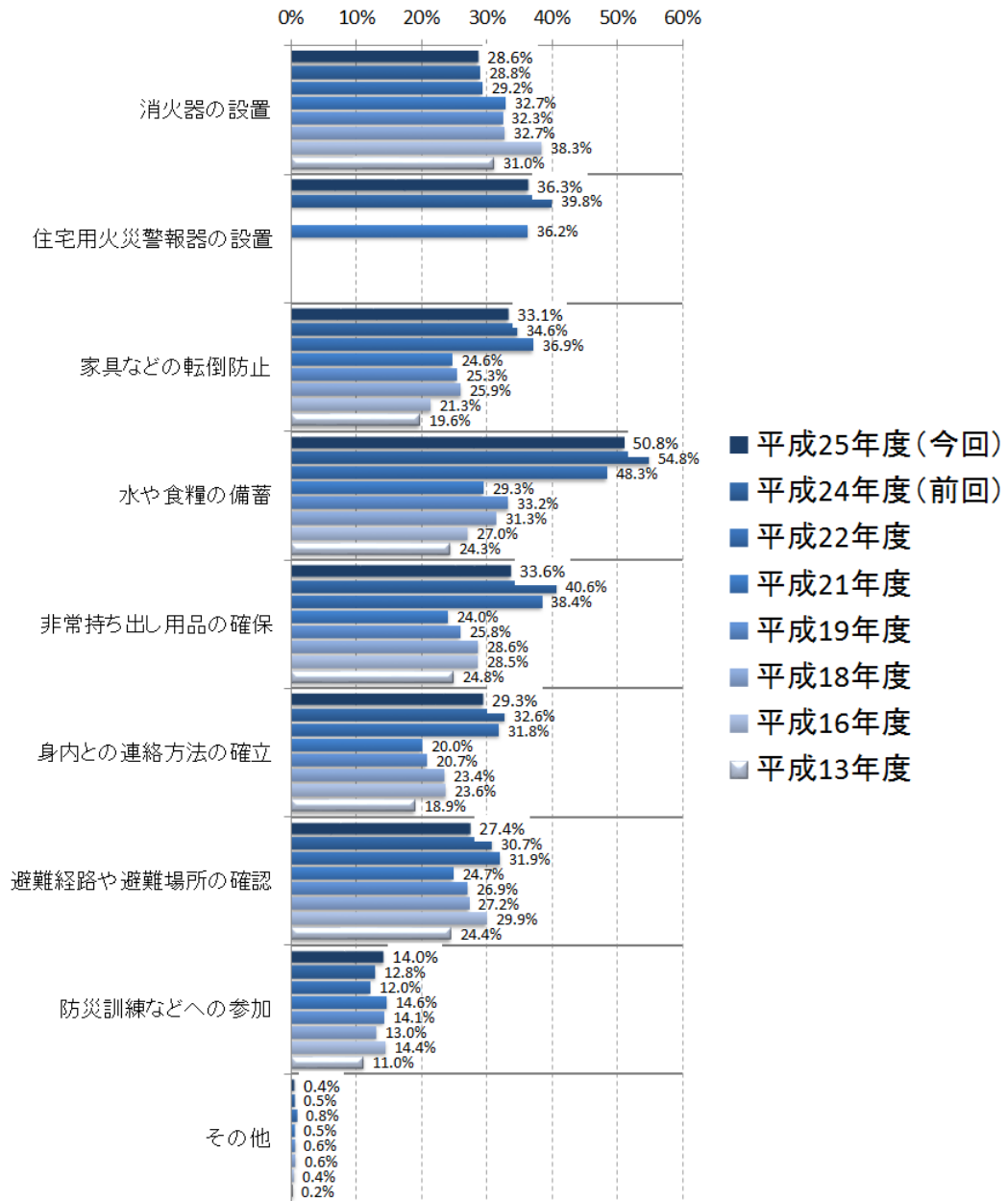
## (4) 指標の分析

### ☆防災の準備をしている人は7割を超えています。

災害に対して何らかの対策を講じている人は 76.9%と、7割を超えていますが、前回調査より 7.1 ポイント減少しています。

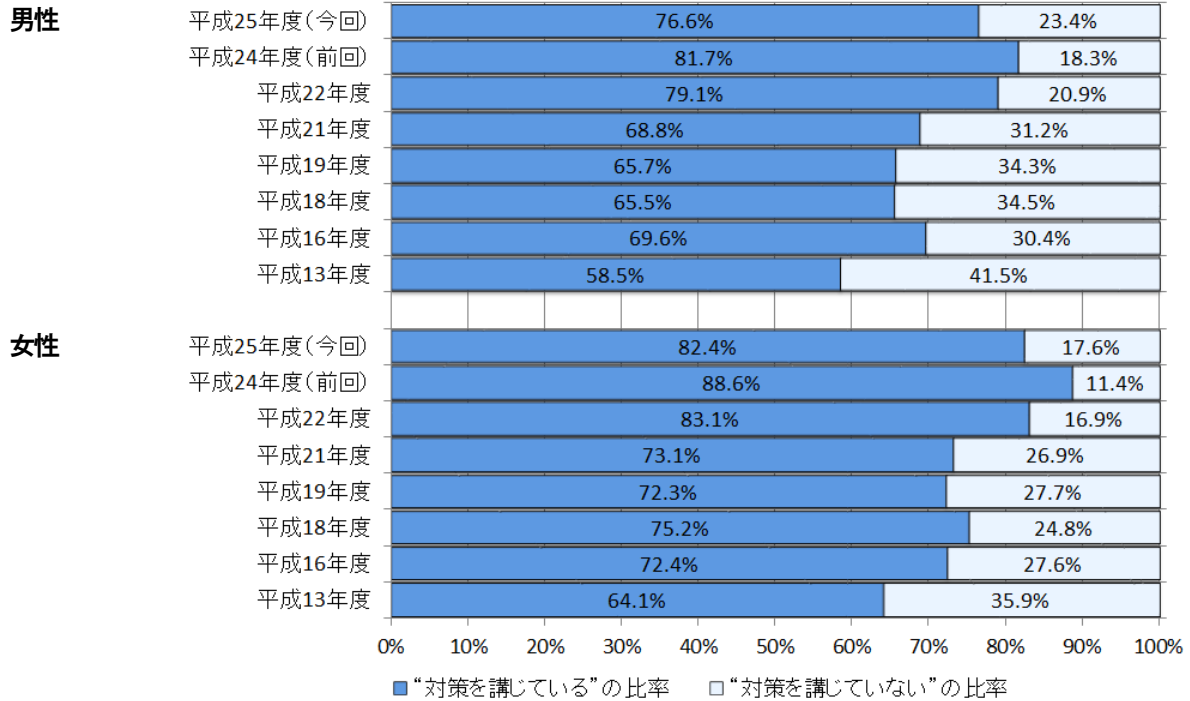


日頃、防災のために準備していることとしては、“水や食糧の備蓄”(50.8%)が半数以上を占めて最も多く、次いで“住宅用火災警報器の設置”(36.3%)、“非常持ち出し用品の確保”(33.6%)、“家具などの転倒防止”(33.1%)などへの回答が多くなっています。



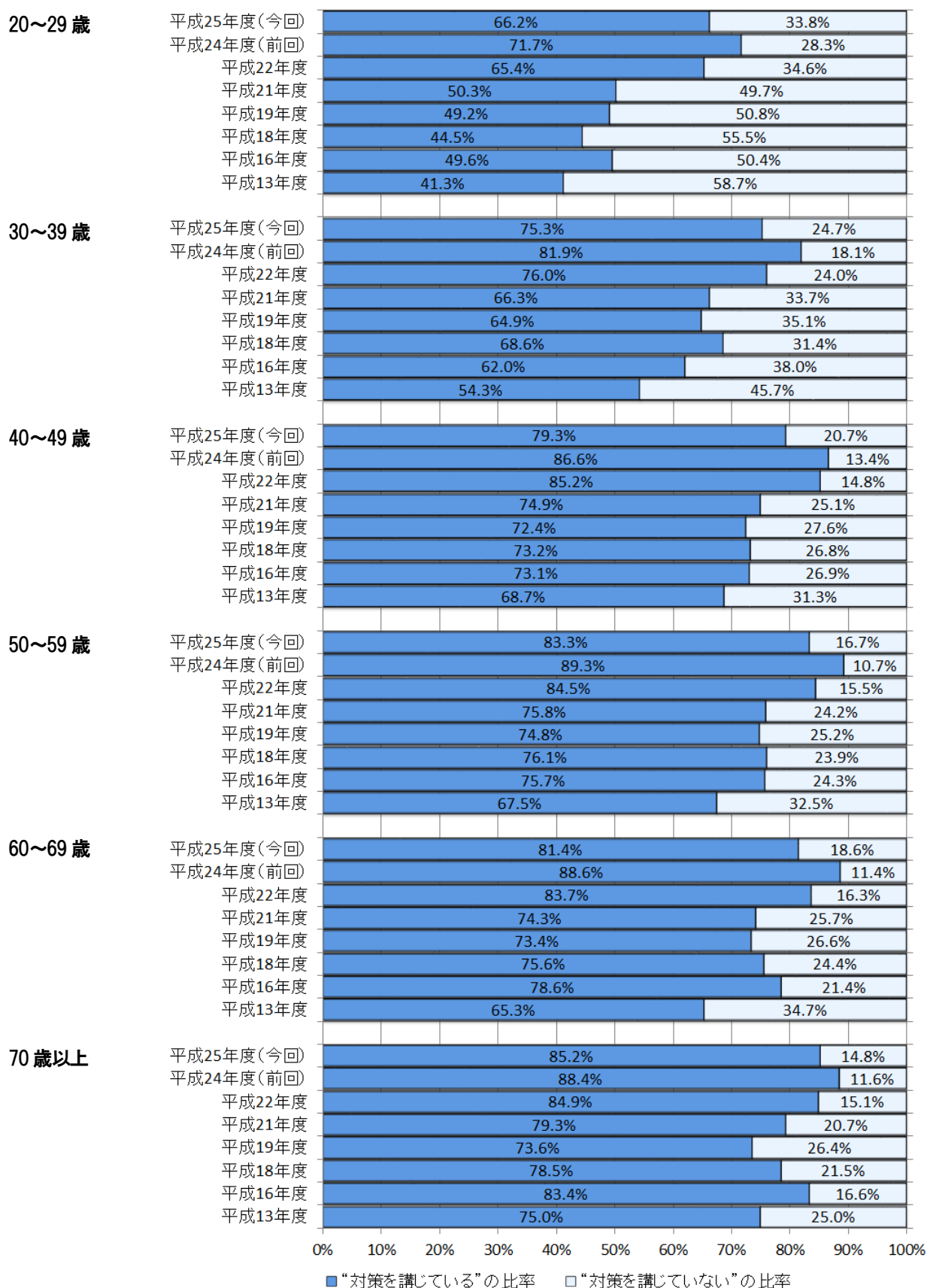
性別で見ると、男性よりも女性の方が災害に対して何らかの準備をしている割合が高くなっています。前回調査に比べ、男性は81.7%から76.6%と5.1ポイント、女性は88.6%から82.4%と6.2ポイント減ったものの、男女とも7割以上の人が災害に対して何らかの準備をしていると回答しています。

**【防災意識×性別】**



年齢別にみると、70歳以上で災害に対して何らかの準備をしている人の割合が最も高く85.2%となっています。50歳代以上の年代で8割以上の人が災害に対して何らかの準備をしていると回答しています。

### 【防災意識×年齢】

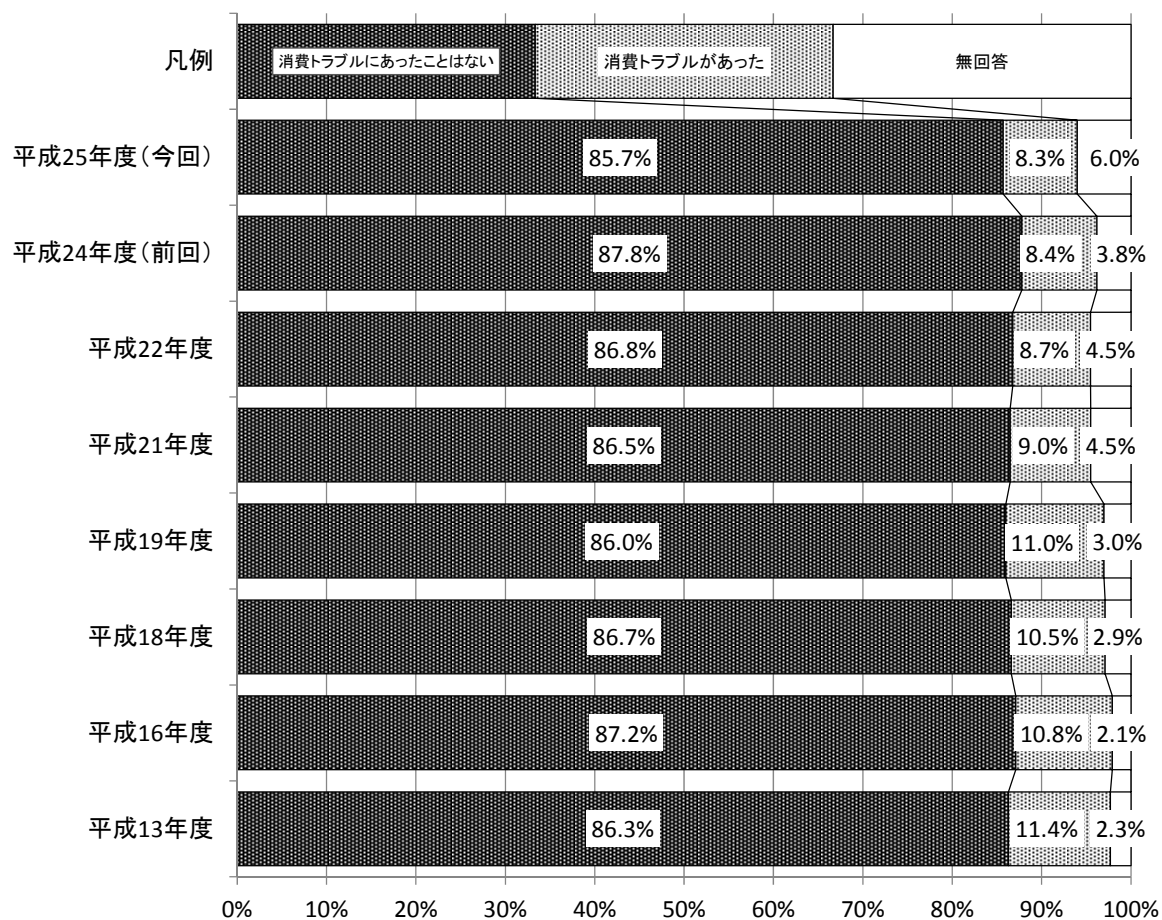




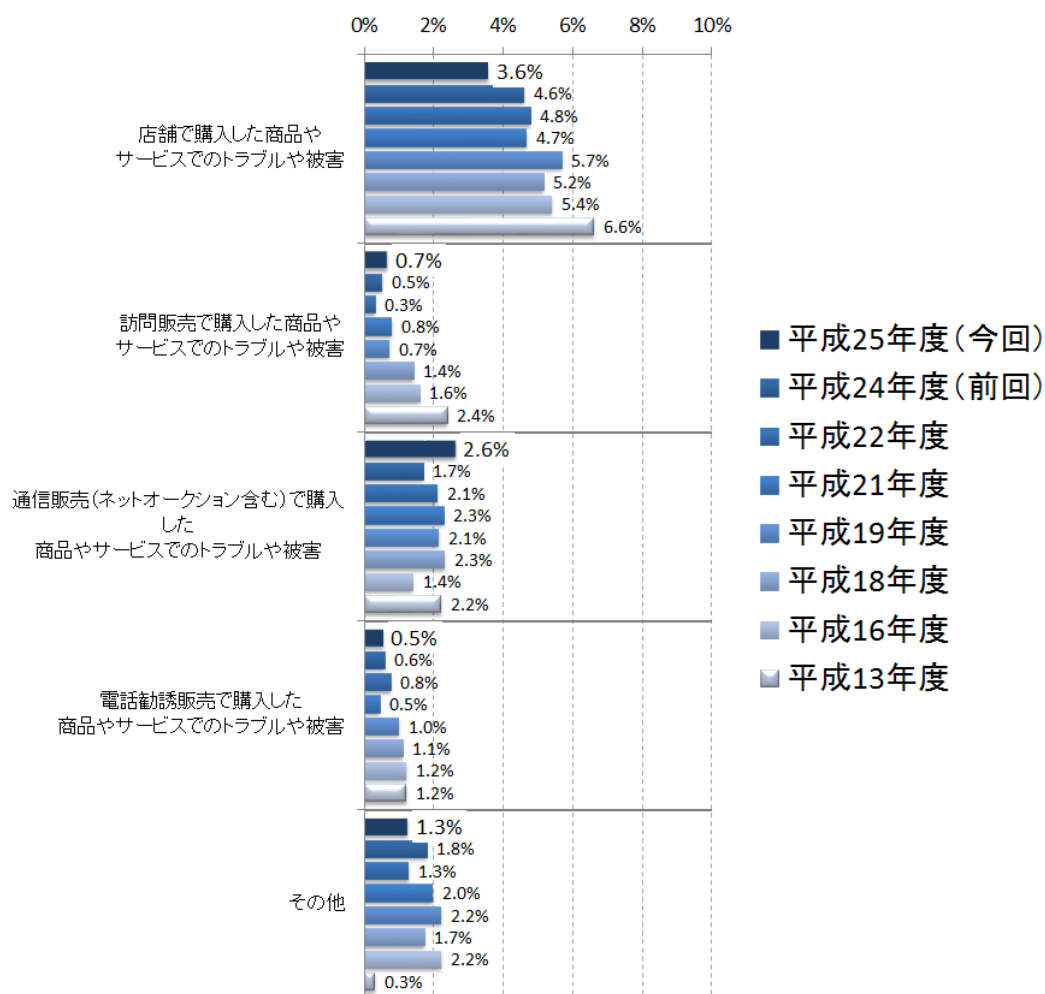
#### (4) 指標の分析

##### ☆消費者トラブルに巻き込まれる人は概ね減少傾向にあります。

この1年間に何らかの消費者トラブルに巻き込まれた人は8.3%で、年々減少傾向を示しています。



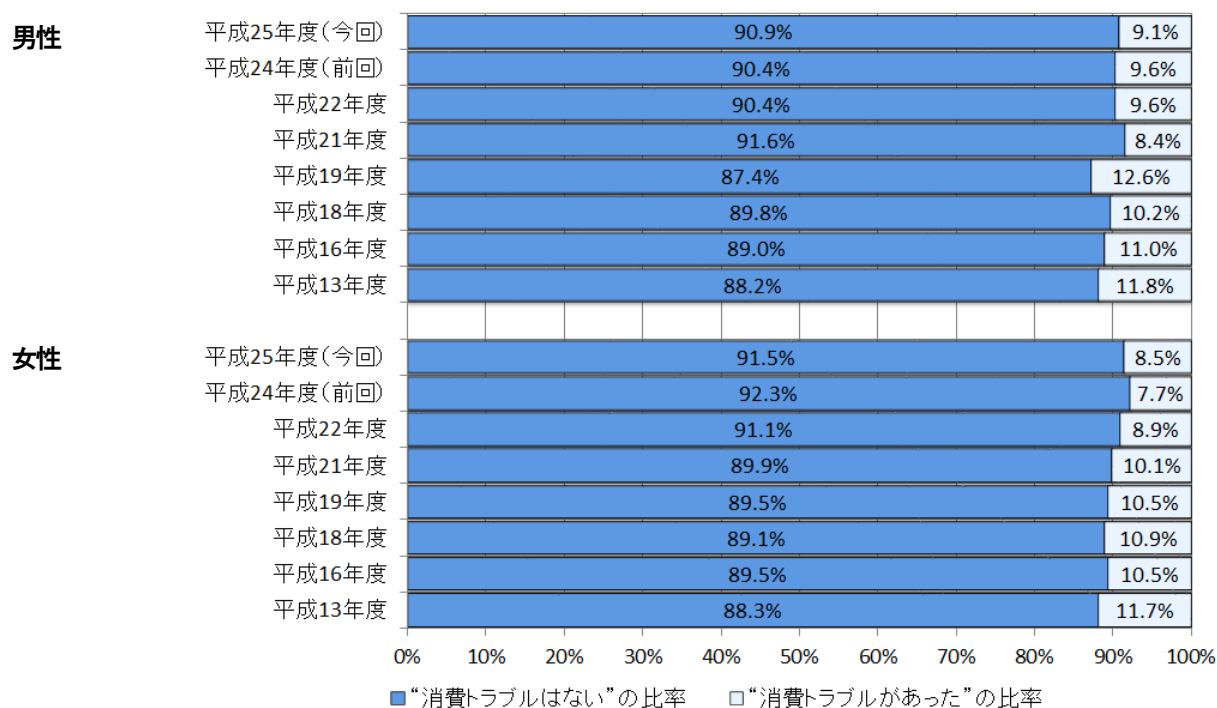
消費者トラブルの内容としては“店舗で購入した商品やサービスでのトラブルや被害”が 3.6%、“通信販売(ネットオークション含む)で購入した商品やサービスでのトラブルや被害”が 2.6%と多くなっています。前回調査と比べ全体的に減少傾向ですが、“通信販売(ネットオークション含む)で購入した商品やサービスでのトラブルや被害”が 1.7ポイントから 2.6ポイントと 0.9ポイント増えています。





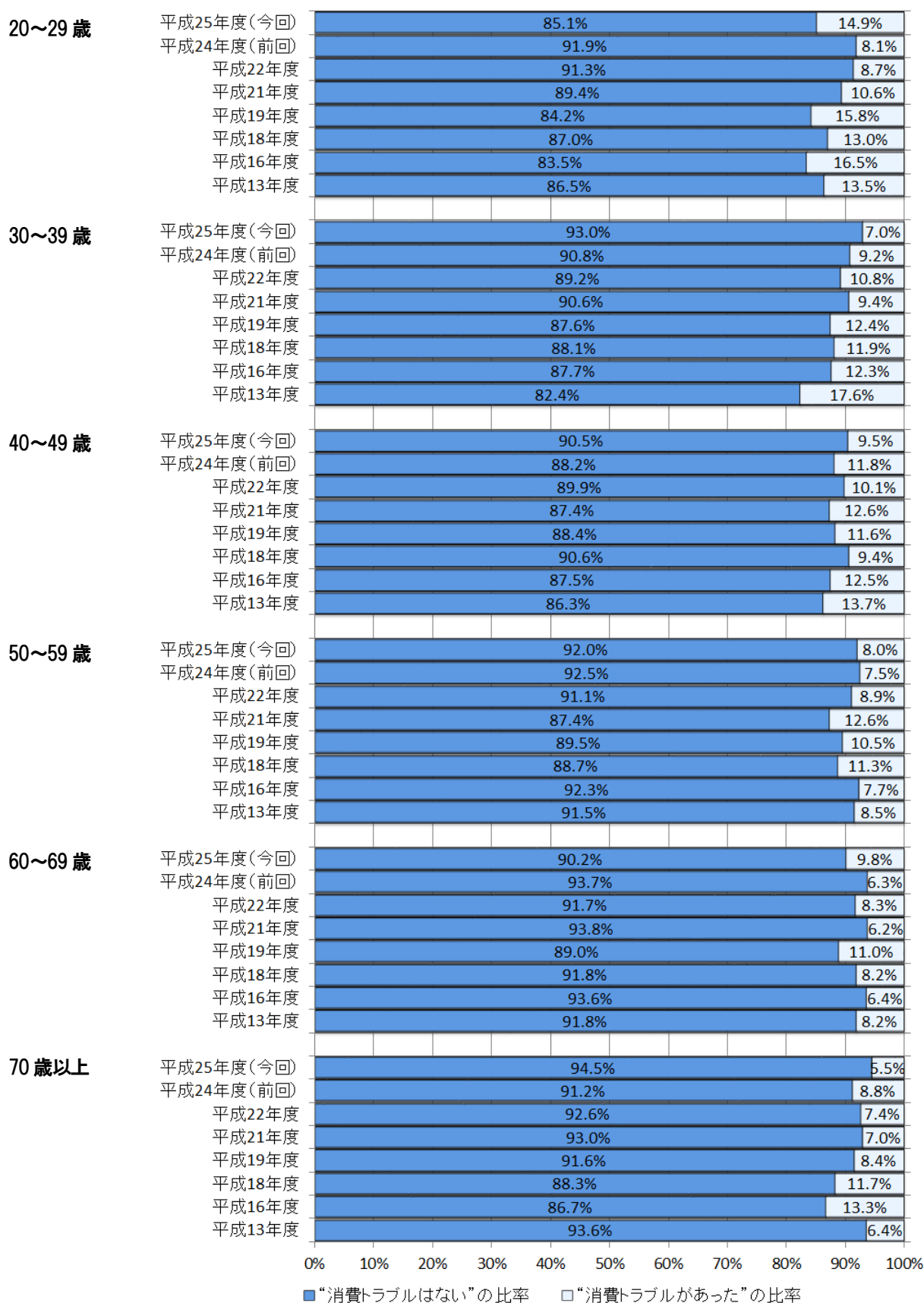
性別で見ると、女性よりも男性の方が“消費トラブルにあった”人の割合が高くなっています。男性は前回調査に比べ9.6%から9.1%と0.5ポイント減少していますが、女性は7.7%から8.5%と0.8ポイント増加しています。

### 【消費トラブル×性別】



年齢別にみると、20歳代で14.9%と“消費トラブル”にあった人の割合が最も高くなっています。30歳代、40歳代、70歳以上では“消費トラブル”にあった人の割合は減少しています。

### 【消費トラブル×年齢】



## 第4節 安全で快適な生活環境の実現

### 第6項 緑と花に親しむことができるようにします

めざしたい将来像：

生きものやみどりとともに暮らすために、みどりの市民力による協働を推進します。そして、人と自然を大切にする思いやりの心を持ち、豊かで潤いのある生活ができるまっちを実現します。

#### 指標

緑地・河川などの自然環境に満足している人の割合

#### (1) 指標の説明

緑や水にふれあう度合いが増すことによって、これらの自然環境に対する市民の満足度も高くなると考え、緑地、河川などの自然環境に満足している人の割合を指標とします。

#### (2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「地域・態度(評価)」

※「緑地・河川などの自然環境」の項目

Q18-ケ あなたが松戸市で生活する中で、次のことについてどの程度満足しているかについて、次の各項目ごとに、あなたの考えに最も近いものをお答え下さい。(それぞれ1つに○)

項目	十分満足している	まあまあ満足している	普通である	やや不満である	きわめて不満である	わからない
ケ 緑地・河川などの自然環境	1	2	3	4	5	6

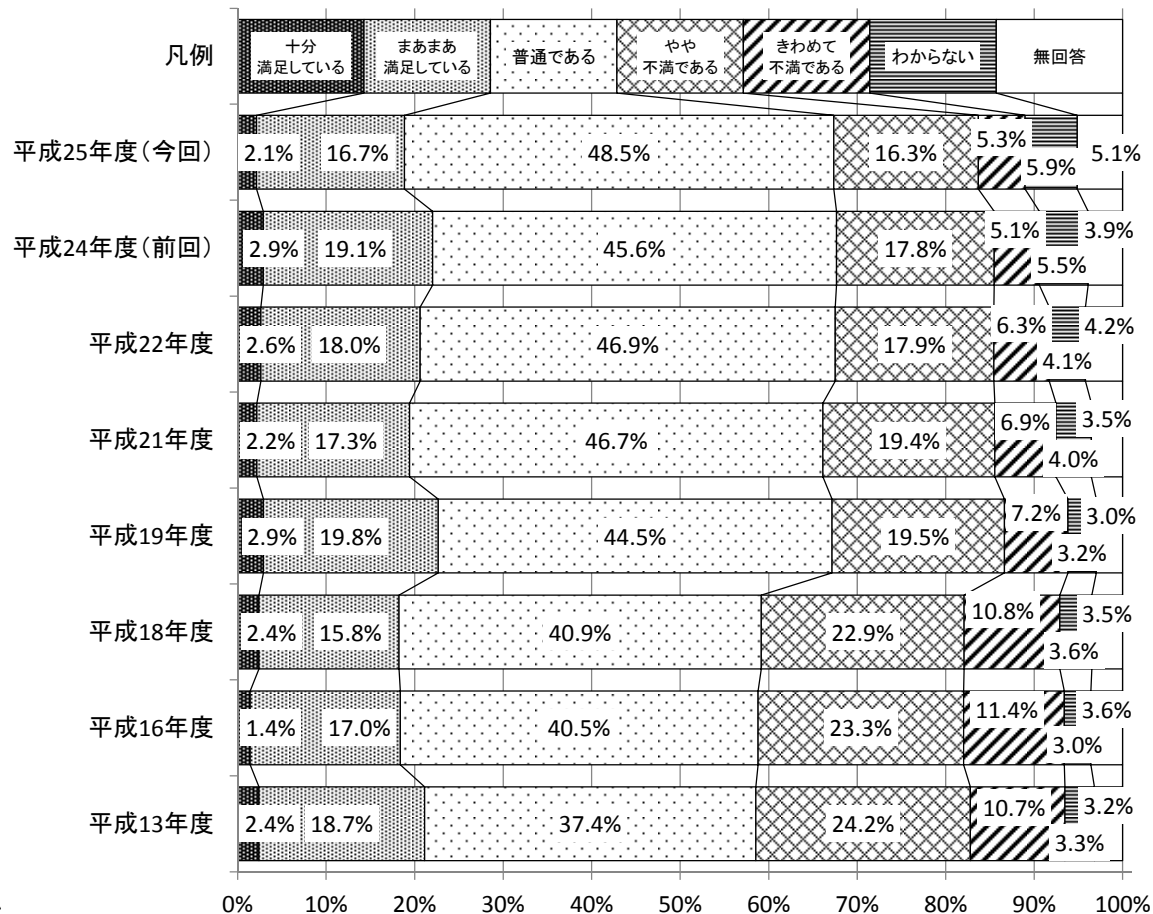
#### (3) 指標の現状

	平成13年度	平成16年度	平成18年度	平成19年度	平成21年度	平成22年度	平成24年度	平成25年度
十分満足している	2.4%	1.4%	2.4%	2.9%	2.2%	2.6%	2.9%	2.1%
まあまあ満足している	18.7%	17.0%	15.8%	19.8%	17.3%	18.0%	19.1%	16.7%
計	21.1%	18.4%	18.2%	22.7%	19.4%	20.6%	22.0%	18.8%

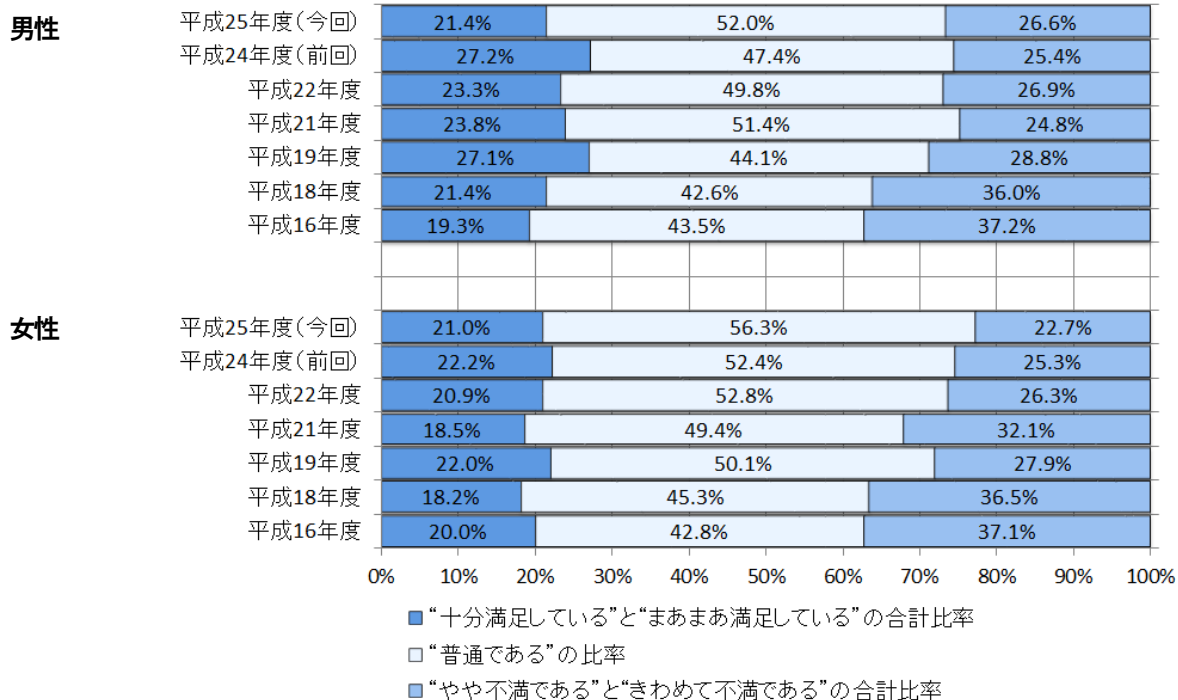
## (4) 指標の分析

### ☆自然環境に対する満足度は18.8%と前回調査よりやや減少しています。

緑地・河川などの自然環境に対する満足度をみると、“十分満足している”(2.1%)、“まあまあ満足している”(16.7%)をあわせた満足という回答の割合は18.8%となっています。一方で“やや不満である”(16.3%)、“きわめて不満である”(5.3%)をあわせた不満も21.6%と満足している層を上回っています。

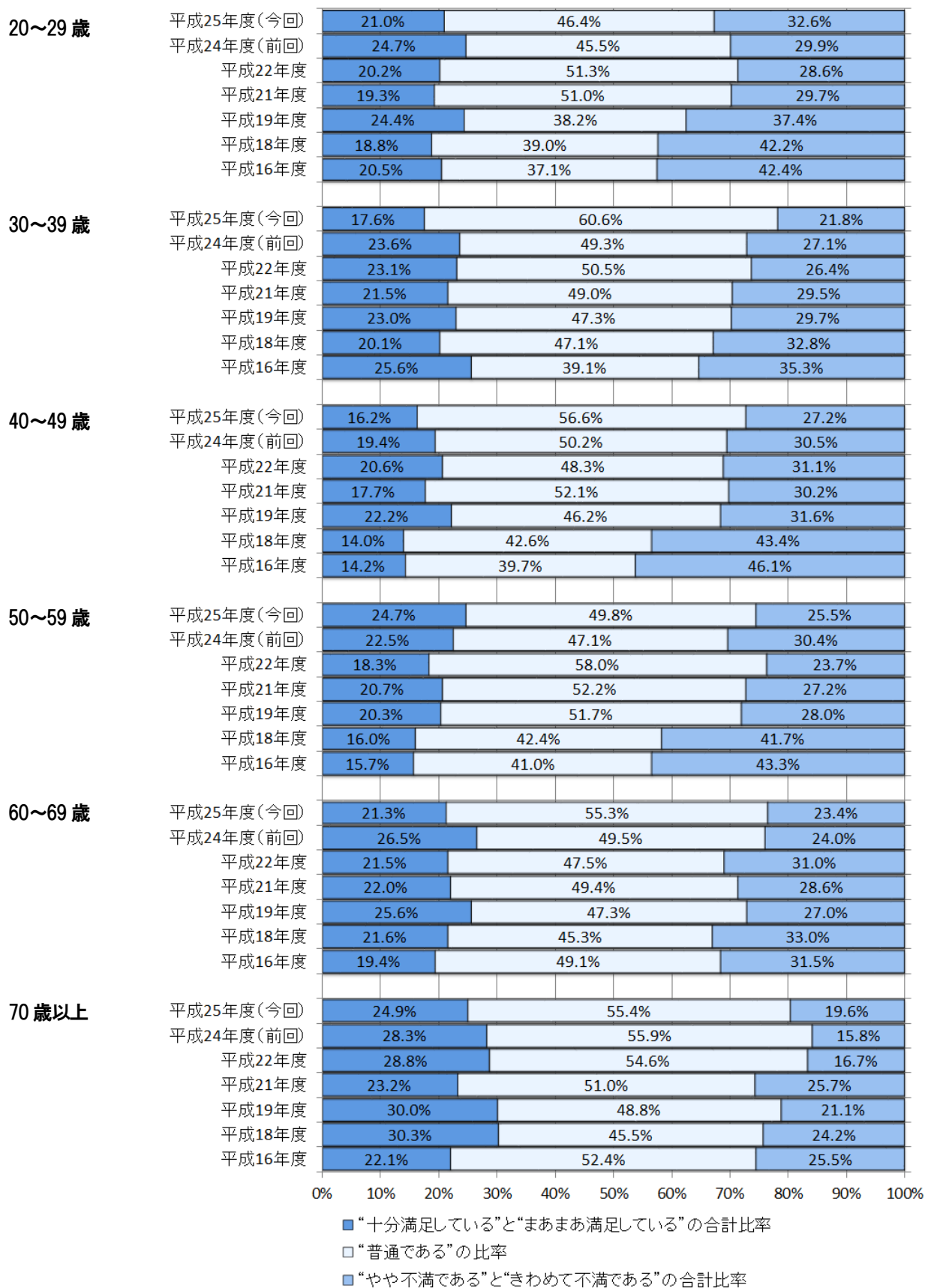


### 【自然環境×性別】



年齢別にみると、70歳以上で自然環境に対して“満足している”割合が最も高くなっています。30歳代と40歳代を除く全年代で自然環境に対して“満足している”人は2割を超えています。

### 【自然環境×年齢】



## 指標

身近で緑が守られ、増えていると感じる人の割合

### (1) 指標の説明

暮らしの中に緑があり、心豊かな生活を実現するため、身近で、緑が守られ、増えていると感じる人の割合を指標とします。

### (2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「地域・態度(評価)」

Q10 あなたは、身近で街路樹や緑地が守られ、増えていると感じていますか。次の中から、あてはまる番号1つに○をつけてください。

- |                               |                 |
|-------------------------------|-----------------|
| 1 守られ、増えていると感じている             | 3 守られていないと感じている |
| 2 守られていると感じているが、増えているとは感じていない |                 |

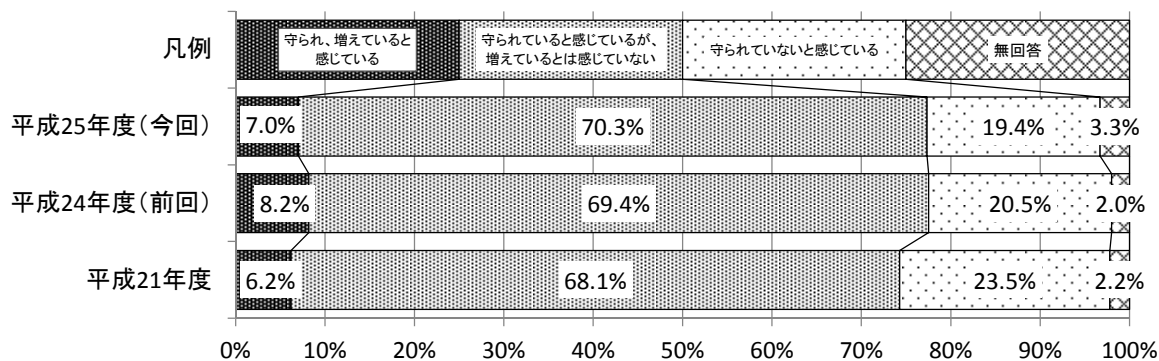
### (3) 指標の現状

	平成 21年度	平成 24年度	平成 25年度
守られ、増えていると感じている	6.2%	8.2%	7.0%

## (4) 指標の分析

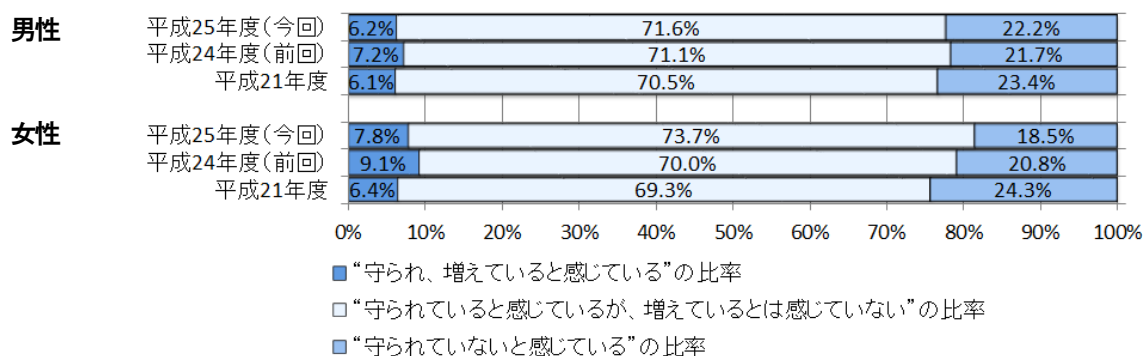
### ☆身近で緑が守られ、増えていると感じている人は1割未満となっています。

身近で緑が守られ、増えていると感じている人は、前回調査と同様に1割未満となっており、8.2%から7.0%と1.2ポイント減少しています。守られていないと感じている人も前回調査に比べ20.5%から19.4%と1.1ポイント減少しています。



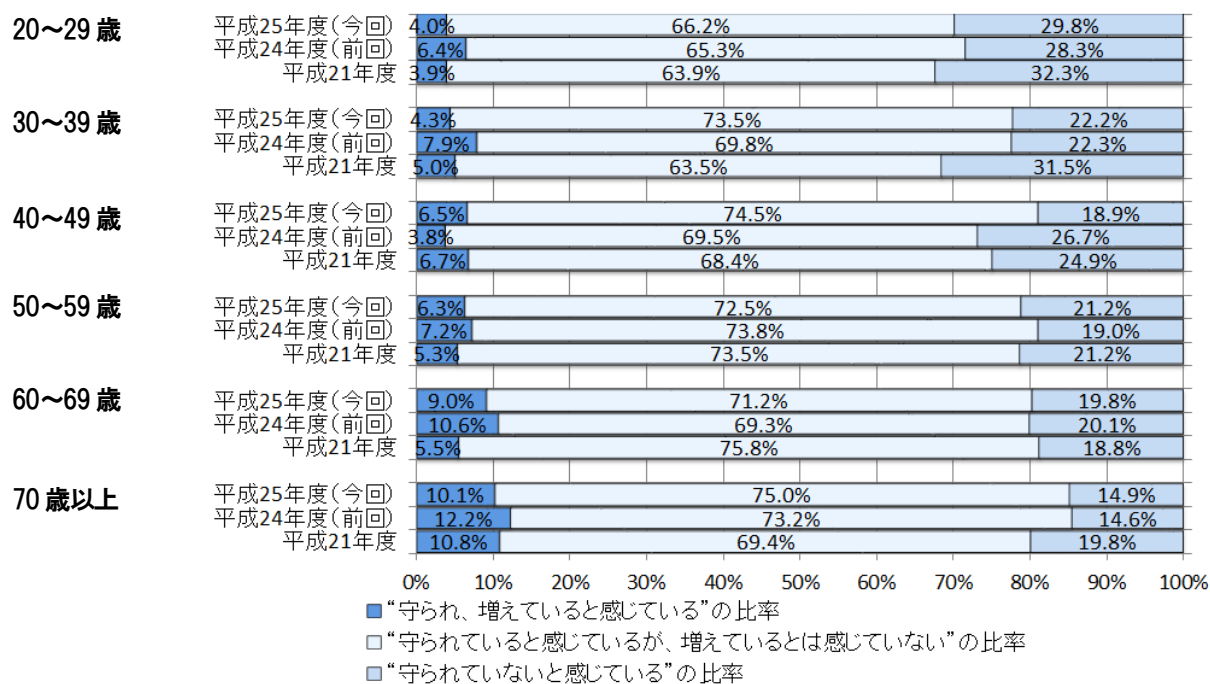
性別で見ると、前回調査と同様に男性よりも女性の方が“街路樹や緑地が守られ、増えている”と感じている人の割合が多くなっています。また、守られていると感じている人の合計は男女とも8割弱となっています。

### 【街路樹や緑地が守られ、増えている×性別】



年齢別にみると、“街路樹や緑地が守られ、増えている”と感じている人の割合は70歳以上では1割を超えています。守られていると感じる人の合計は全年代で7割を超えています。

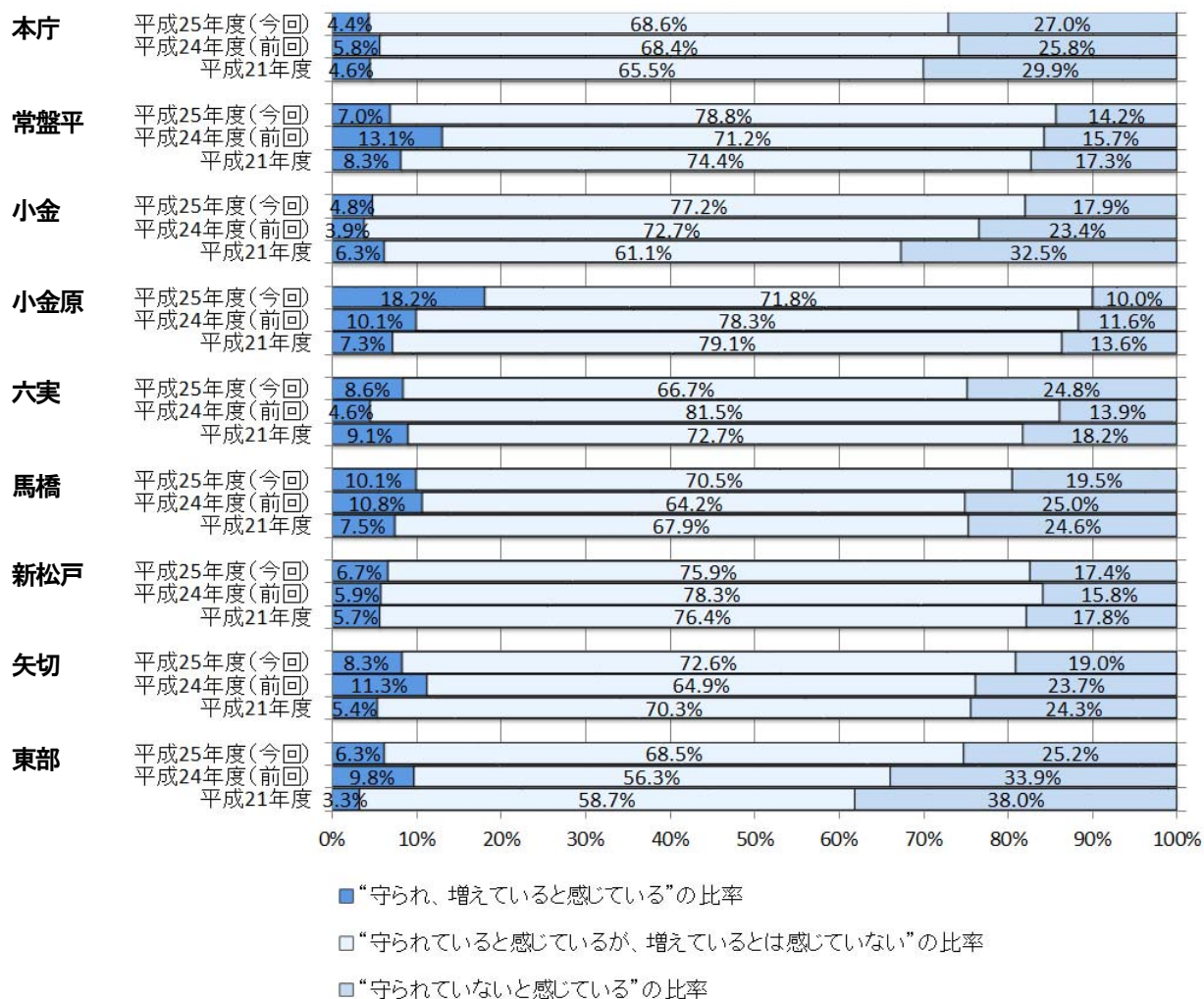
### 【街路樹や緑地が守られ、増えている×年齢】





地区別にみると、“街路樹や緑地が守られ、増えている”と感じている人が、小金原地区、馬橋地区で1割を超えています。前回調査に比べ“守られていない”と感じている人は六実地区で13.9%から24.8%と10.8ポイント増えています。

### 【街路樹や緑地が守られ、増えている×地区】



## 第5節 魅力ある都市空間の形成と産業の振興

### 第1項 地域産業を振興し、豊かな経済活動ができるようにします

めざしたい将来像：

今ある資源を活かした、新しい松戸らしい地域産業を生み出すため、産・学・官・民の連携、世代間を超えた連携を継続して行うことによって、若者にも魅力ある松戸のまちを実現します。

#### 指標

快適・便利・賑わいがあると感じている人の割合

#### (1) 指標の説明

都市機能の強化は、快適性や利便性の向上となり、産業の振興と雇用の確保、観光資源の活用や商圈の拡大等による交流人口の増加は賑わいをもたらすものです。そこで、快適・便利・賑わいがあると感じている人の割合を指標とします。

#### (2) 設問

この指標は、「快適・便利・賑わいの4項目の満足度」を組み合わせて聞いています。「地域・態度(評価)」

※「まちの賑わいや買い物の便」「通勤、通学などの交通の便」「道路、公園、下水道などの都市施設」「特色ある祭りや地域ぐるみのイベント」の4項目

Q18 あなたが松戸市で生活する中で、次のことについてどの程度満足しているかについて、次のア～タの各項目ごとに、あなたの考えに最も近い番号それぞれ1つに○をつけてください。

	項目	十分満足している	まあまあ満足している	普通である	やや不満である	きわめて不満である	わからない
イ	まちの賑わいや買い物の便	1	2	3	4	5	6
ウ	通勤・通学などの交通の便	1	2	3	4	5	6
キ	道路、公園、下水道などの都市施設	1	2	3	4	5	6
セ	特色ある祭りや地域ぐるみのイベント	1	2	3	4	5	6

#### <総合満足度の算出について>

快適・便利・賑わいの4項目の総合満足度については、次のような方法にもとづき算出しています。

- ・Q20イ、ウ、キ、セの4つの質問のそれぞれについて、選択肢に応じた評価点を付与する。
- ・該当する質問の評価点を合計し、合計点に基づいて総合満足度を判定する。

#### 評価点

- ①「十分満足」 +2点
- ②「まあまあ満足」 +1点
- ③「普通」 ±0点
- ④「やや不満」 -1点
- ⑤「きわめて不満」 -2点

#### 判定

- ① +5点以上 (十分満足している)
- ② +1～+4点 (まあまあ満足している)
- ③ ±0点 (普通である)
- ④ -1～-4点 (やや不満である)
- ⑤ -5点以下 (きわめて不満である)

該当する質問の評価点を合計する

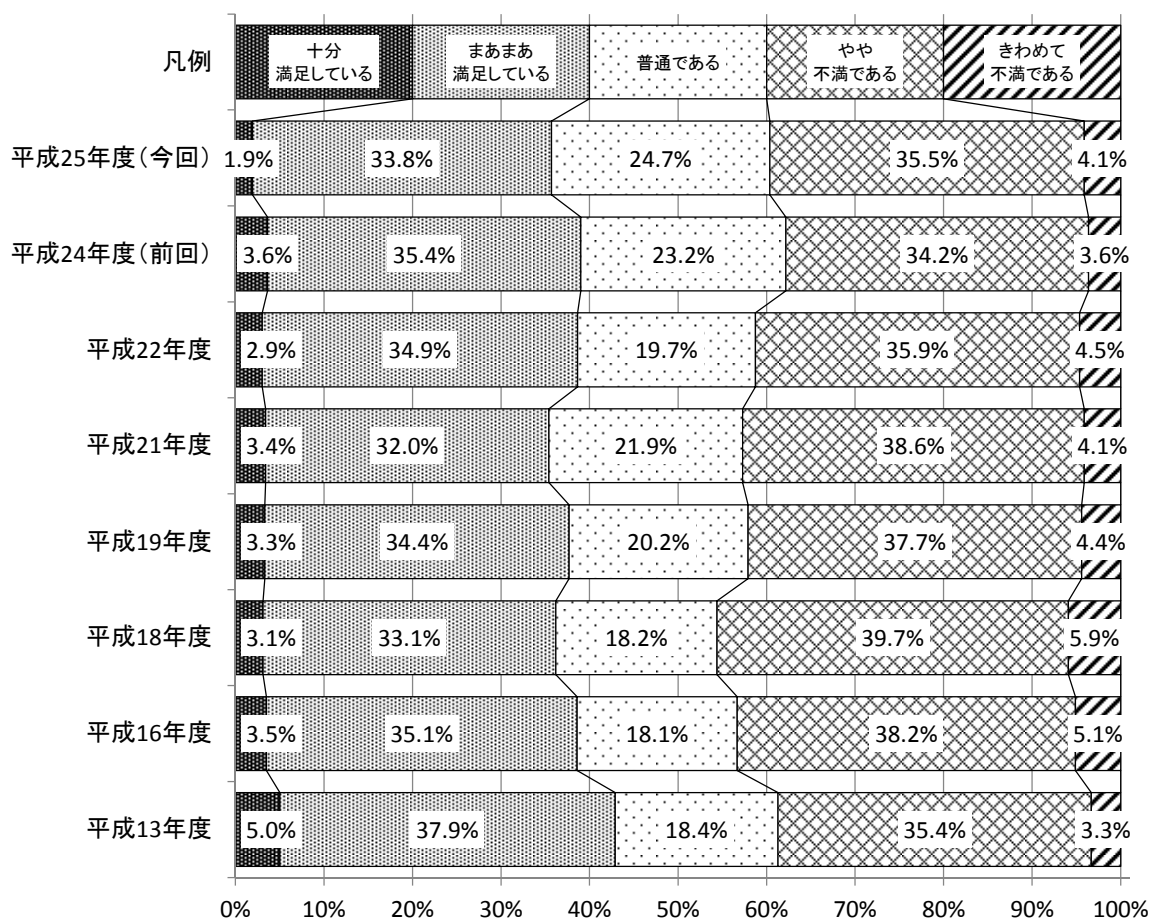
### (3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度
十分満足している	5.0%	3.5%	3.1%	3.3%	3.4%	2.9%	3.6%	1.9%
まあまあ満足している	37.9%	35.1%	33.1%	34.4%	32.0%	34.9%	35.4%	33.8%
計	42.9%	38.6%	36.2%	37.7%	35.4%	37.8%	39.0%	35.7%

### (4) 指標の分析

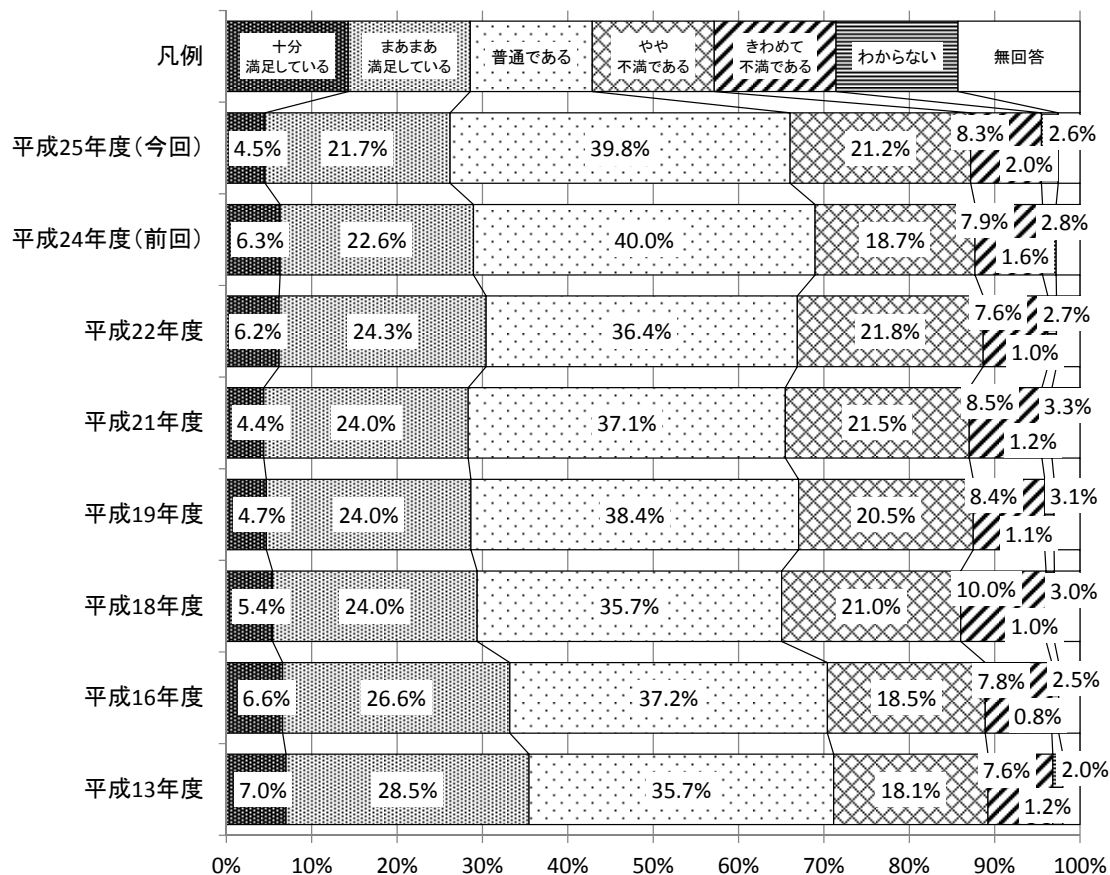
☆**快適・便利・賑わいに対する満足度はやや減少しています。**

快適・便利・賑わいの4項目の総合満足度についてみると、“十分満足している”(1.9%)、“まあまあ満足している”(33.8%)をあわせた満足という人の割合は35.7%で、前回調査に比べ減っています。一方、“やや不満である”(35.5%)、“きわめて不満である”(4.1%)をあわせた不満層は39.6%と増加し、満足している層を上回っています。

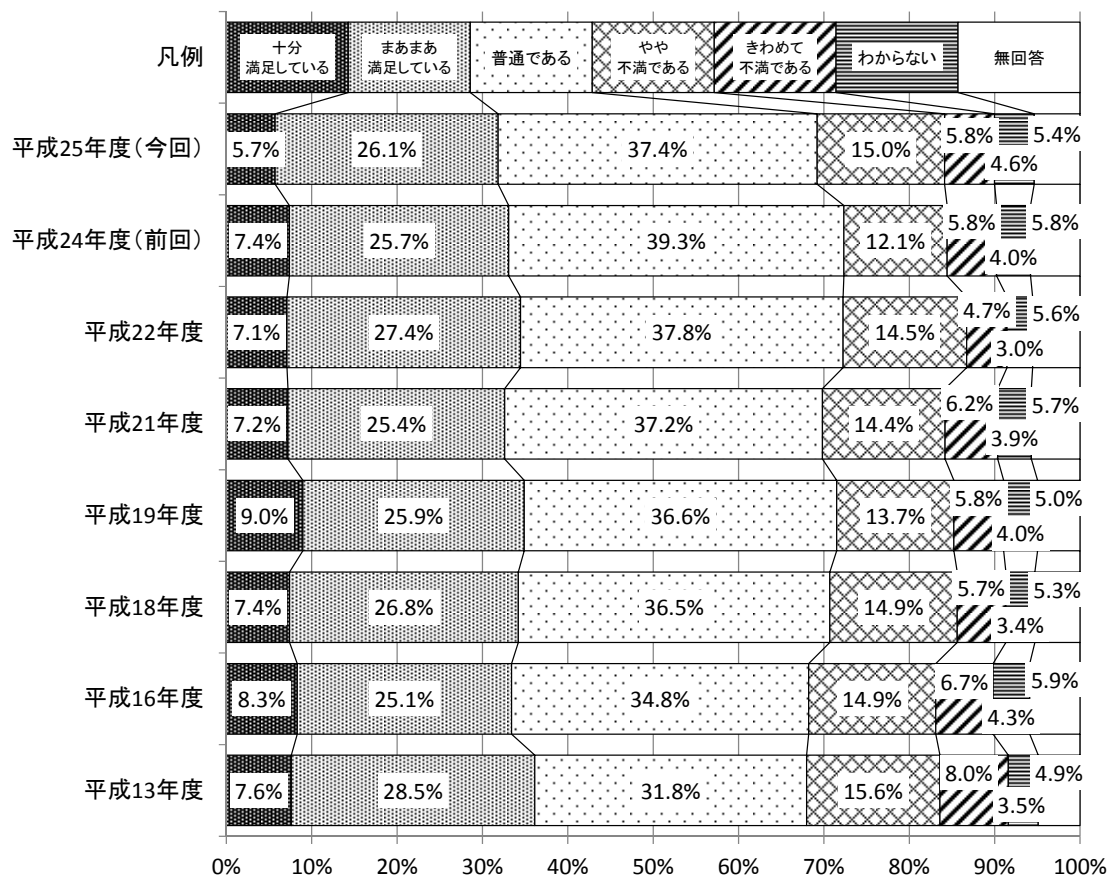


【まちの賑わいや買い物の便】、【通勤、通学などの交通の便】、【道路、公園、下水道などの都市施設】、【特色ある祭りや地域ぐるみのイベント】の利便性に関わる全ての項目の満足度は前回調査と比べわずかに減少しています。

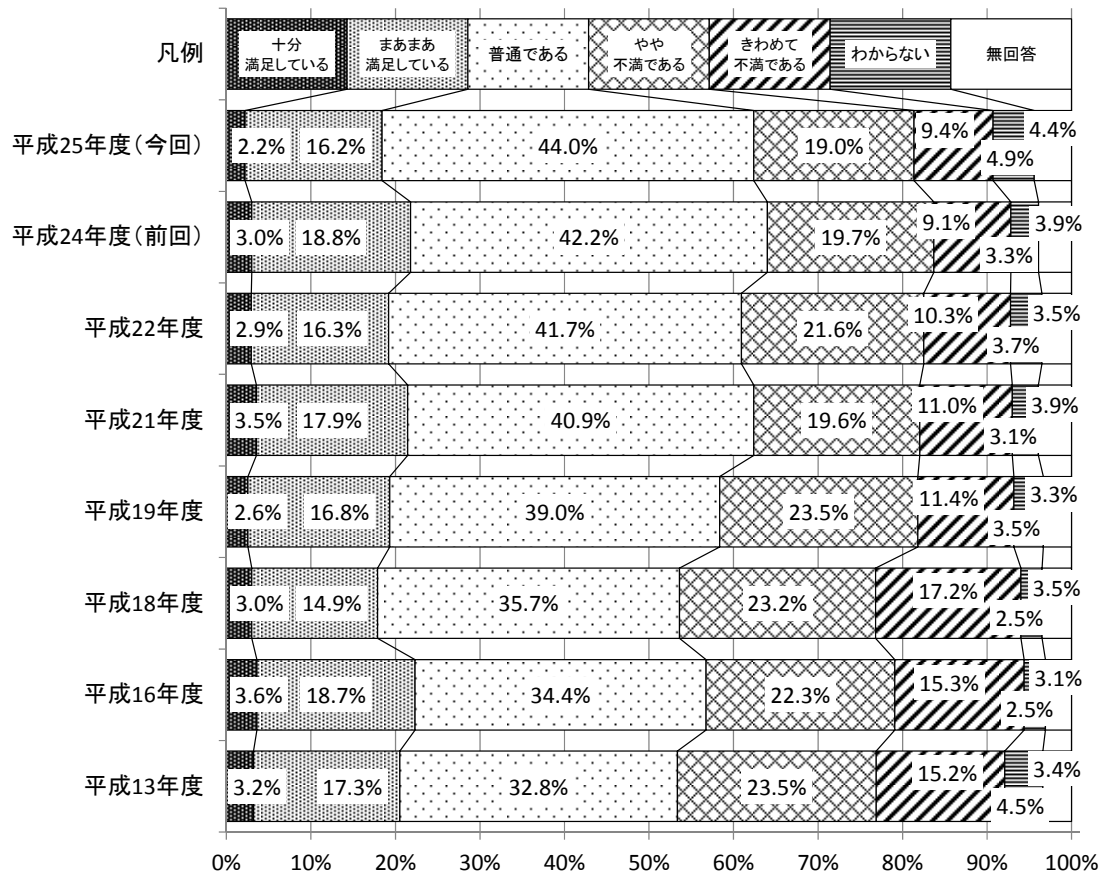
【まちの賑わいや買い物の便】



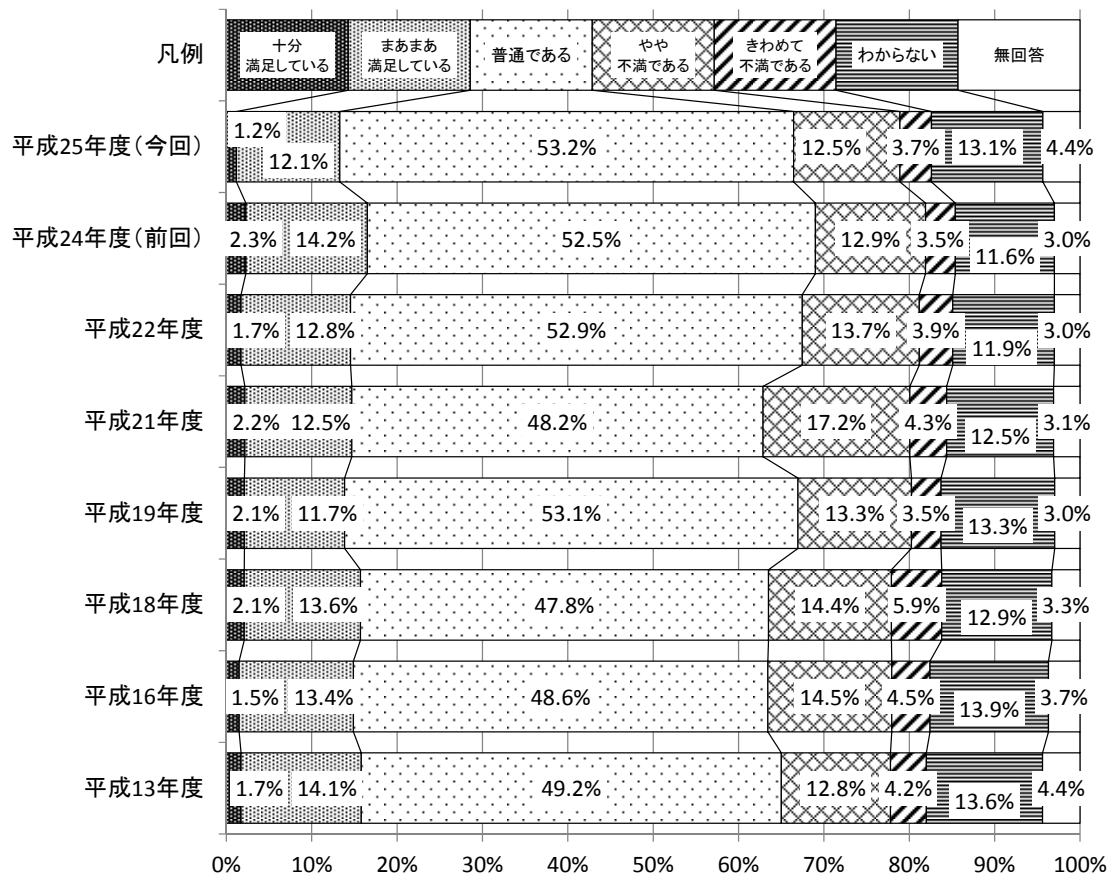
【通勤、通学などの交通の便】



【道路、公園、下水道などの都市施設】



【特色ある祭りや地域ぐるみのイベント】



## 指標

松戸の良さを伝えるために取り組んでいる市民の割合

### (1) 指標の説明

魅力あるまちづくりに向けて、松戸の良さに気づき、その良さを他の人に伝えている市民が増えることが必要と考えられます。そこで、松戸の良さを伝えるために取り組んでいる市民の割合を指標とします。

### (2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・行動」

Q9 あなたは日頃、松戸の良さを他の人に伝える活動をしていますか。次の中から、あてはまる番号1つに○をつけてください。

- |            |            |
|------------|------------|
| 1 日常的にしている | 3 あまりしていない |
| 2 ときどきしている | 4 全くしていない  |

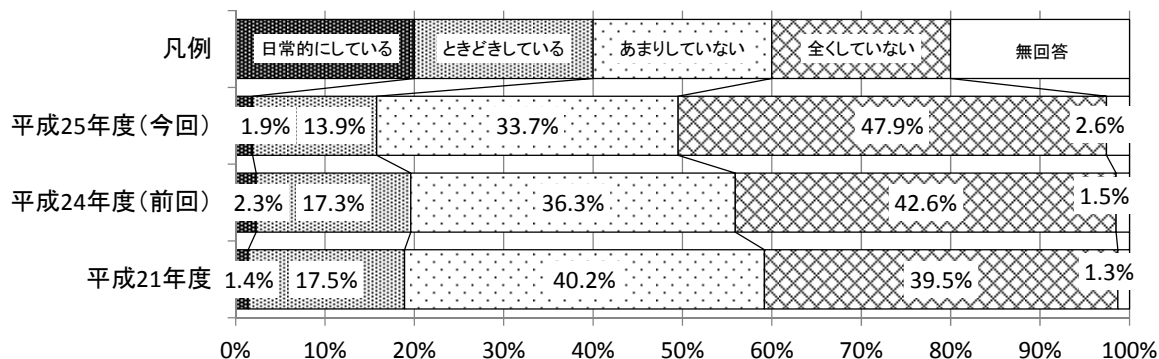
### (3) 指標の現状

	平成 21年度	平成 24年度	平成 25年度
日常的にしている	1.4%	2.3%	1.9%
ときどきしている	17.5%	17.3%	13.9%
計	19.0%	19.6%	15.8%

## (4) 指標の分析

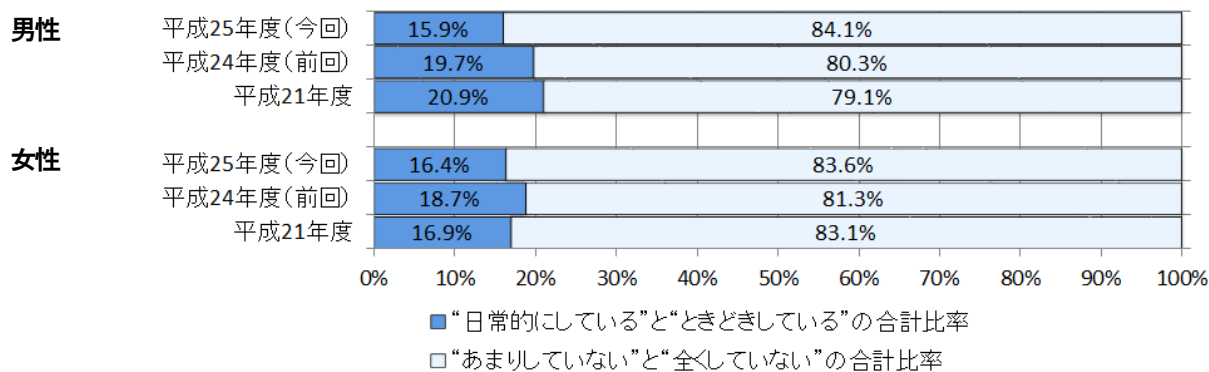
### ☆松戸の良さを他の人に伝えている人は2割未満となっています。

日頃、松戸の良さを他の人に伝える活動を、“日常的にしている”人の割合は前回調査に比べ減っています。  
 “日常的にしている”と“ときどきしている”の合計は15.8%と2割未満で前回調査と同様の傾向となっています。



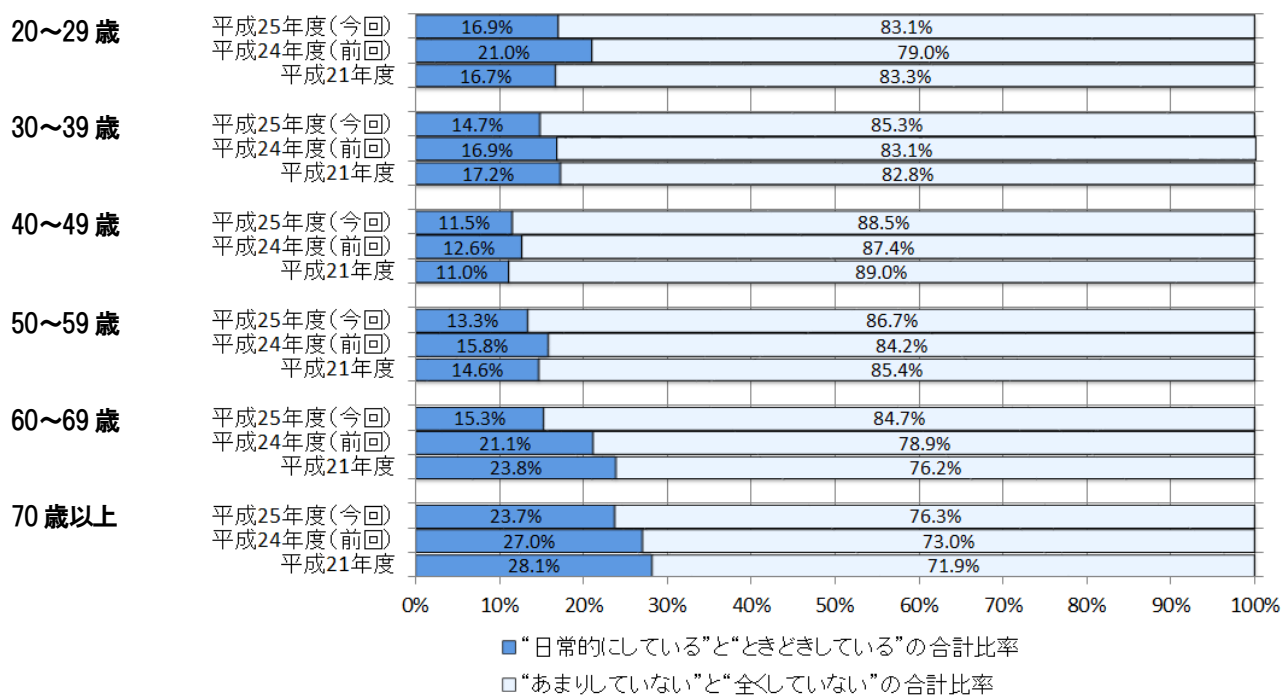
性別で見ると、男性よりも女性の方が松戸の良さを他の人に伝える活動をしている人の割合が高くなっています。

### 【松戸の良さの伝達×性別】



年齢別にみると、70歳以上では松戸の良さを他の人に伝える活動をしている人が2割を超え23.7%と他の年代に比べ高い割合となっています。

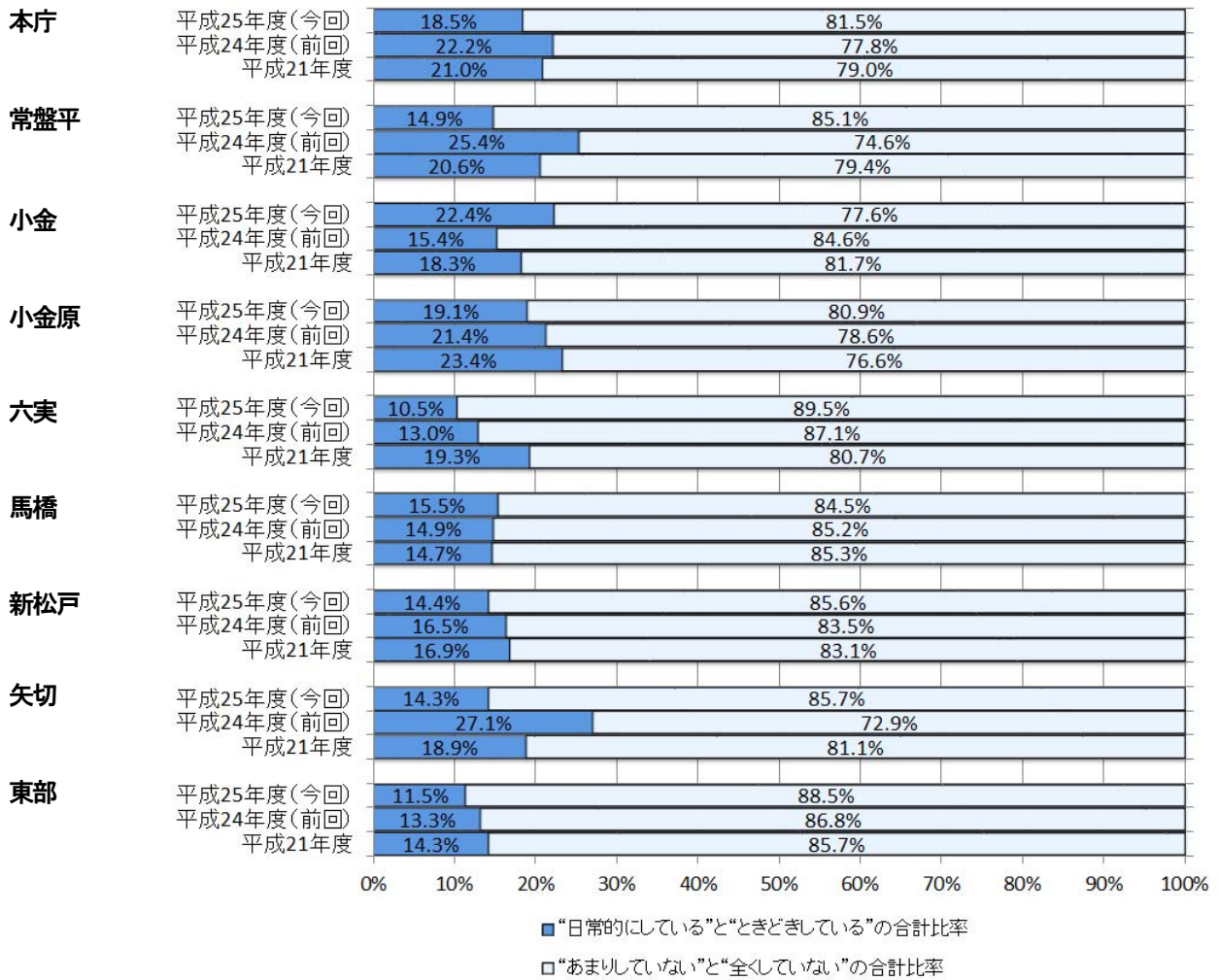
### 【松戸の良さの伝達×年齢】





地区別にみると、前回調査に比べ小金地区では松戸の良さを他の人に伝える活動をしている人が 15.4%から 22.4%と 7.0 ポイント増えています。六実地区、東部地区ではそれぞれ 10.5%、11.5%と他の地区に比べ活動している人の割合が低くなっています。

**【松戸の良さの伝達×地区】**



## 第5節 魅力ある都市空間の形成と産業の振興

### 第3項 ゆとりを感じるまちに住むことができるようにします

めざしたい将来像：

文化的で自然豊かなゆとりのあるまちと感じられるように、産・学・官・民が連携してまちづくりをすすめることで、地域のコミュニティが生まれ、市民のふるさととしてふさわしいまちを実現します。

#### 指標

安心やゆとりを感じている人の割合

#### (1) 指標の説明

住環境の拡大や自然環境の保全是、多くの人々にゆとり感を与えます。そこで、安心やゆとりを感じている人の割合を指標とします。

#### (2) 設問

この指標は、「安心やゆとりの6項目の満足度」を組みあわせ聞いています。「地域・態度(評価)」

※「保健・医療・福祉サービス」「緑地・河川などの自然環境」「空気のきれいさ、騒音、悪臭などの公害の少なさ」「まち並み、建物などまち全体の景観」「事故や災害に強い安全なまち」「住環境のゆとりなどの住宅事情」の6項目

Q18 あなたが松戸市で生活する中で、次のことについてどの程度満足しているかについて、次のア～タの各項目ごとに、あなたの考えに最も近い番号それぞれ1つに○をつけてください。

項目	十分満足している	まあまあ満足している	普通である	やや不満である	きわめて不満である	わからない
ア 保健・医療・福祉サービス	1	2	3	4	5	6
ケ 緑地・河川などの自然環境	1	2	3	4	5	6
コ 空気のきれいさ、騒音・悪臭などの公害の少なさ	1	2	3	4	5	6
サ まち並み、建物などまち全体の景観	1	2	3	4	5	6
シ 事故や災害に強い安全なまち	1	2	3	4	5	6
タ 住環境のゆとりなどの住宅事情	1	2	3	4	5	6

#### <総合満足度の算出について>

安心やゆとりの6項目の総合満足度については、次のような方法にもとづき算出しています。

- ・Q20ア、ケ、コ、サ、シ、タの6つの質問のそれぞれについて、選択肢に応じた評価点を付与する。
- ・該当する質問の評価点を合計し、合計点に基づいて総合満足度を判定する。

#### 評価点

- ①「十分満足」 +2点
- ②「まあまあ満足」 +1点
- ③「普通」 ±0点
- ④「やや不満」 -1点
- ⑤「きわめて不満」 -2点

#### 判定

- ①+5点以上 (十分満足している)
- ②+1～+4点 (まあまあ満足している)
- ③±0点 (普通である)
- ④-1～-4点 (やや不満である)
- ⑤-5点以下 (きわめて不満である)

該当する質問の評価点を合計する

### (3) 指標の現状

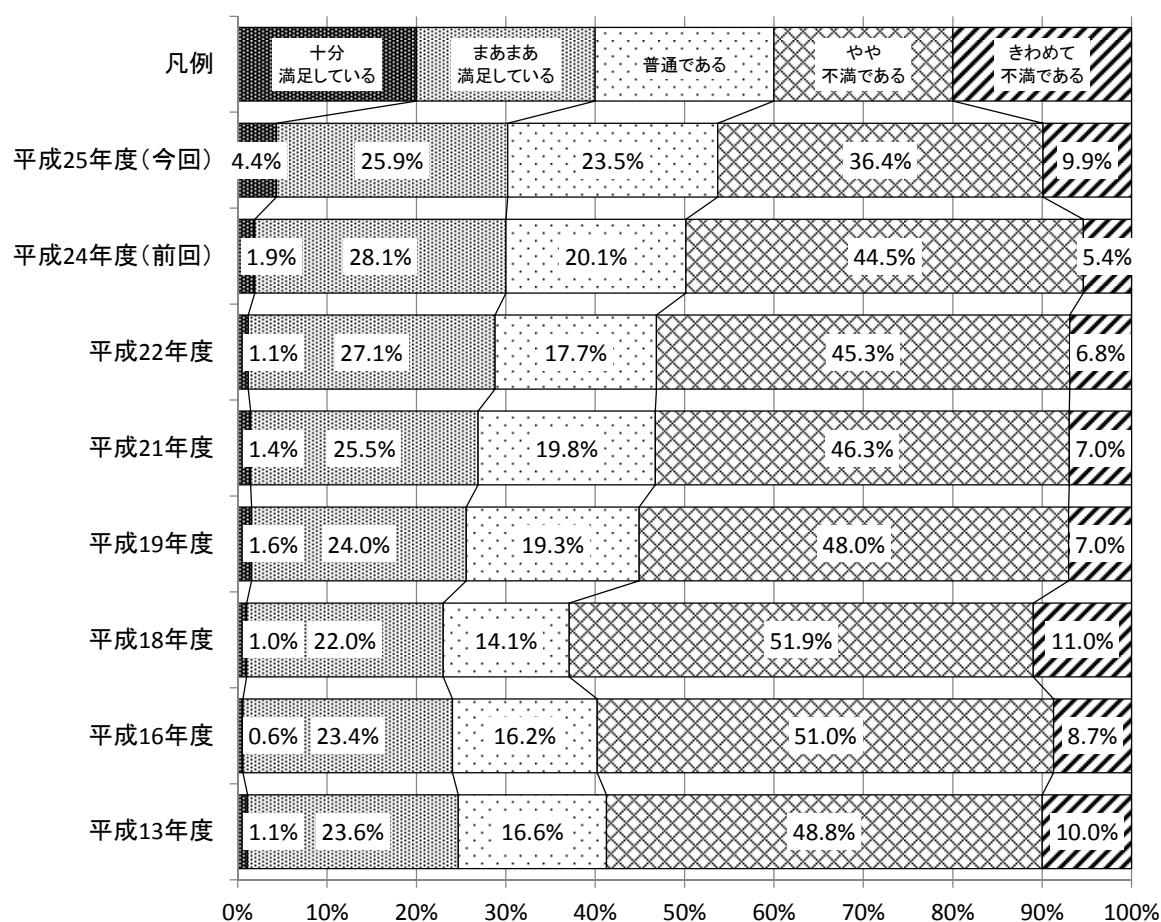
	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度
十分満足している	1.1%	0.6%	1.0%	1.6%	1.4%	1.1%	1.9%	4.4%
まあまあ満足している	23.6%	23.4%	22.0%	24.0%	25.5%	27.1%	28.1%	25.9%
計	24.7%	24.0%	23.0%	25.6%	26.9%	28.2%	30.0%	30.2%

### (4) 指標の分析

☆安心やゆとりに対する満足度は前回調査よりやや増加しています。

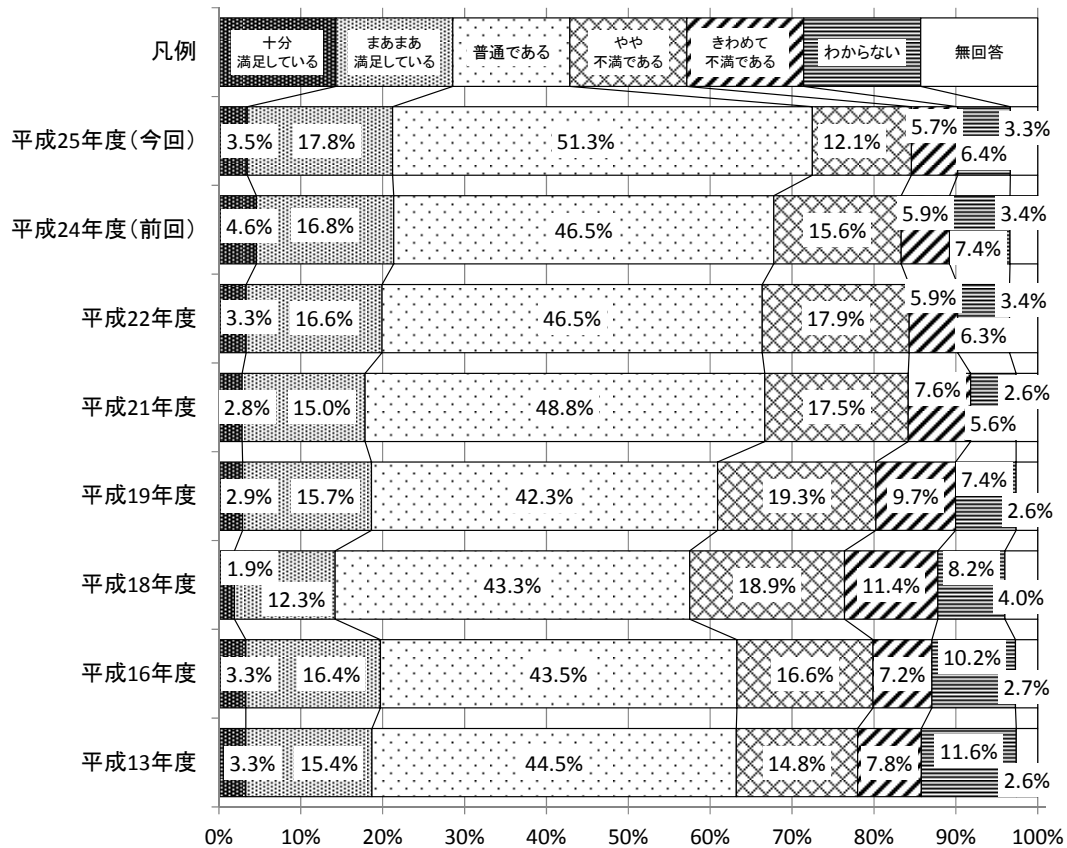
安心やゆとりの6項目の総合満足度についてみると、“十分満足している”(4.4%)、“まあまあ満足している”(25.9%)をあわせた、満足している層は30.2%で、前回調査の30.0%よりもやや増えています。

一方で、“やや不満である”(36.4%)が最も多く、“きわめて不満である”(9.9%)とあわせると、不満と感じている層が46.3%と満足層を大きく上回っています。

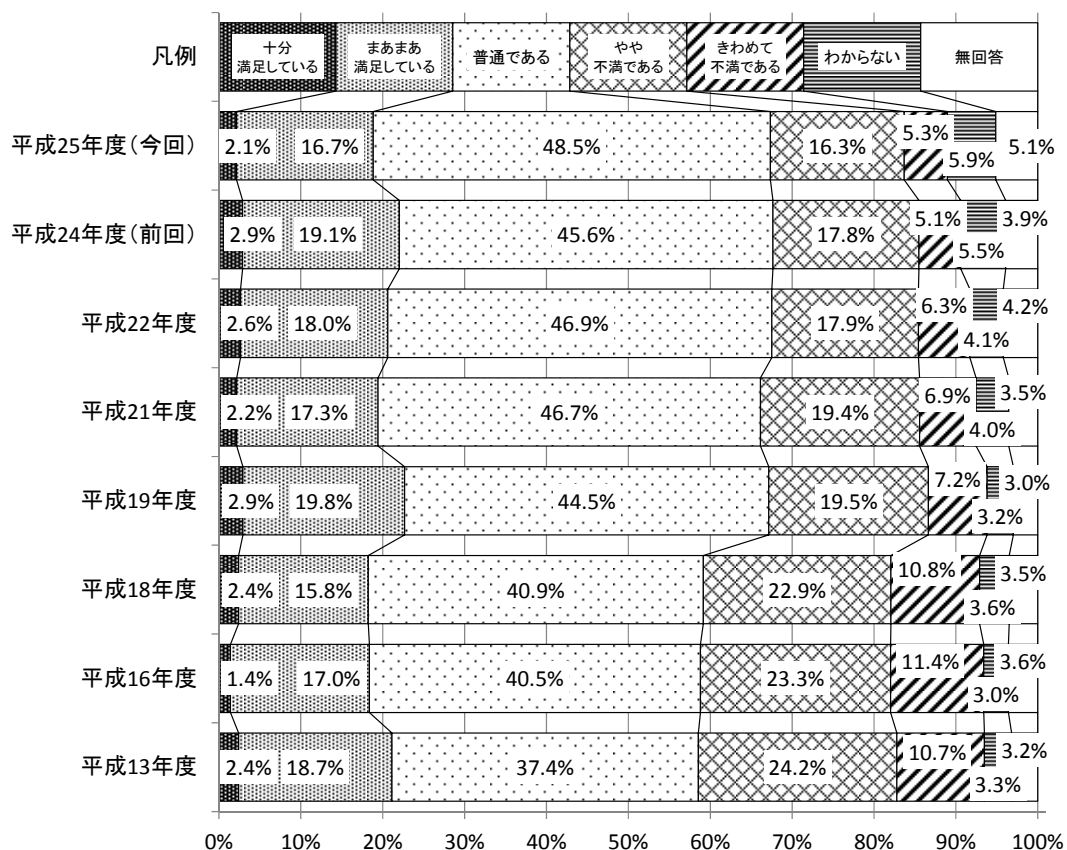


安心やゆとりに関わる6項目のうち、【空気のきれいさ、騒音、悪臭などの公害の少なさ】の1項目については満足している層が増加しています。

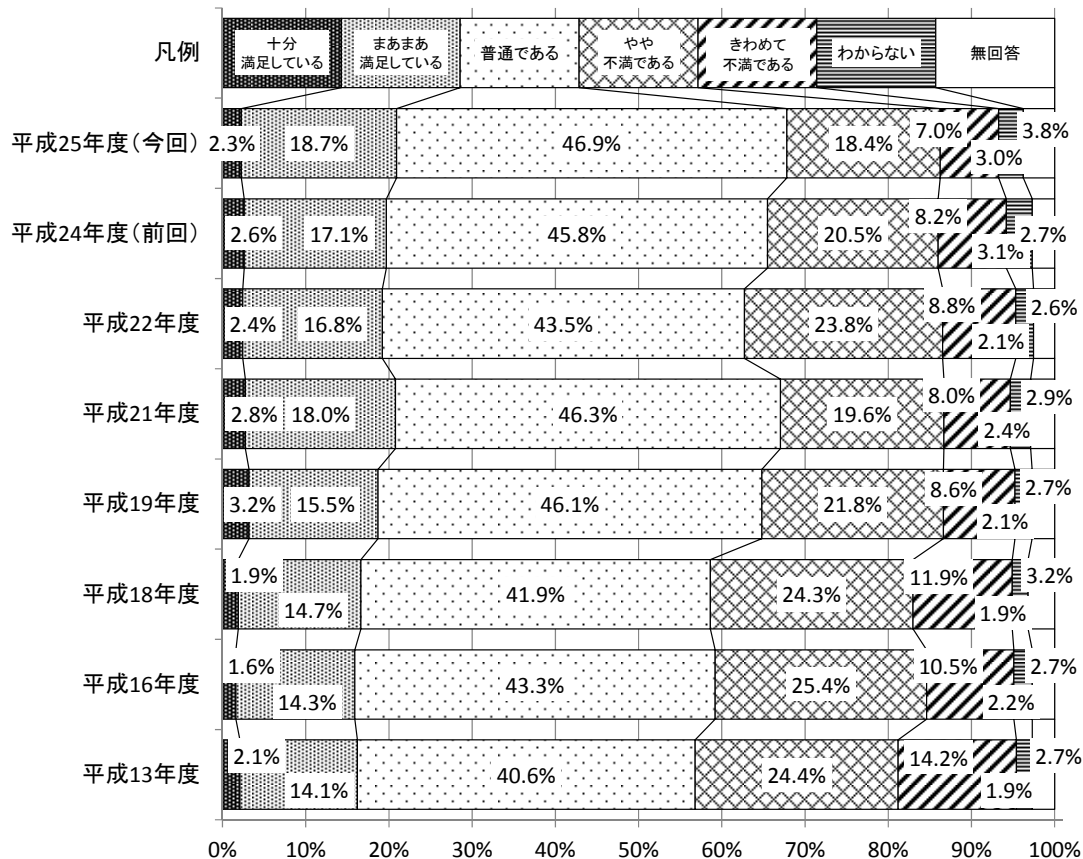
【保健・医療・福祉サービス】



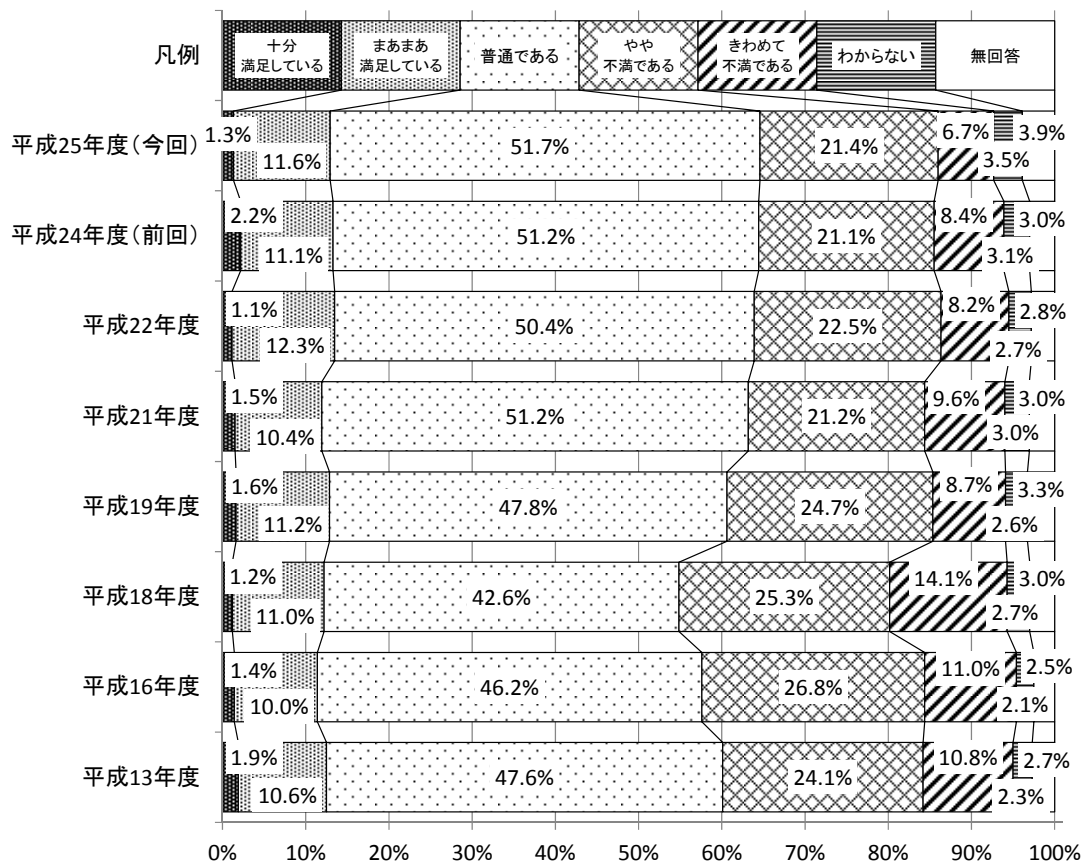
【緑地・河川などの自然環境】



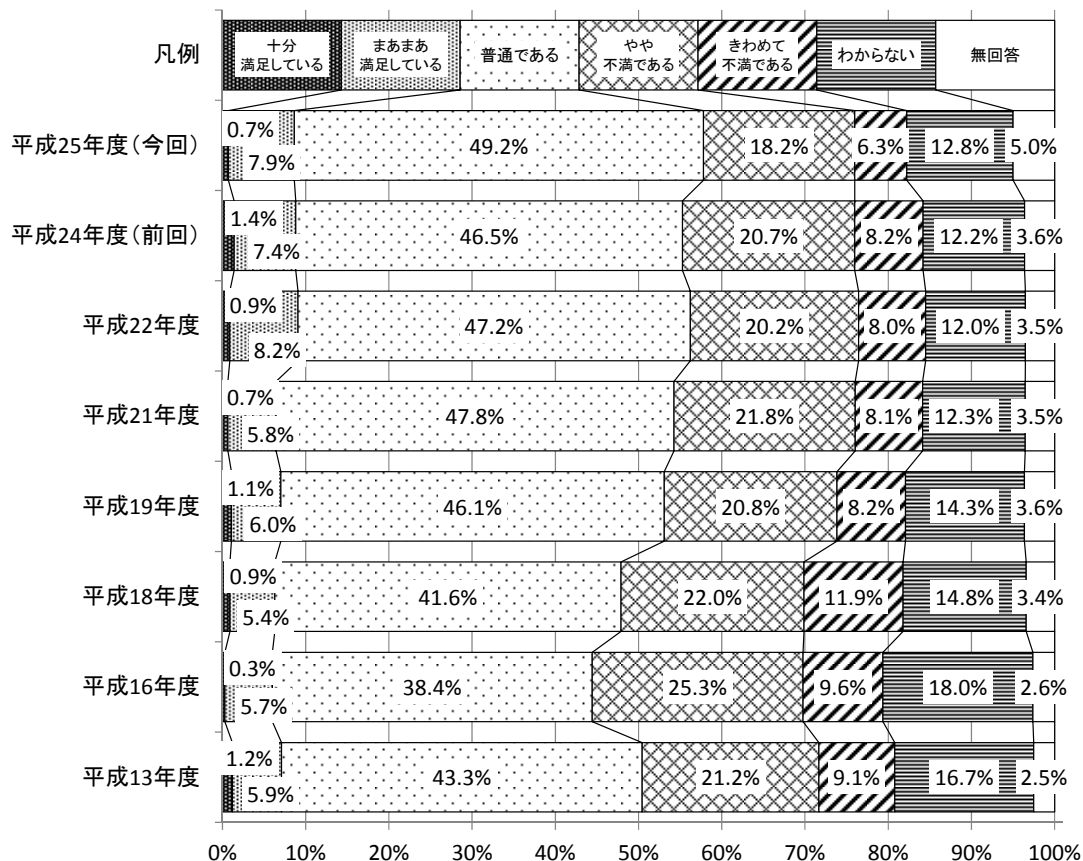
### 【空気のきれいさ、騒音、悪臭などの公害の少なさ】



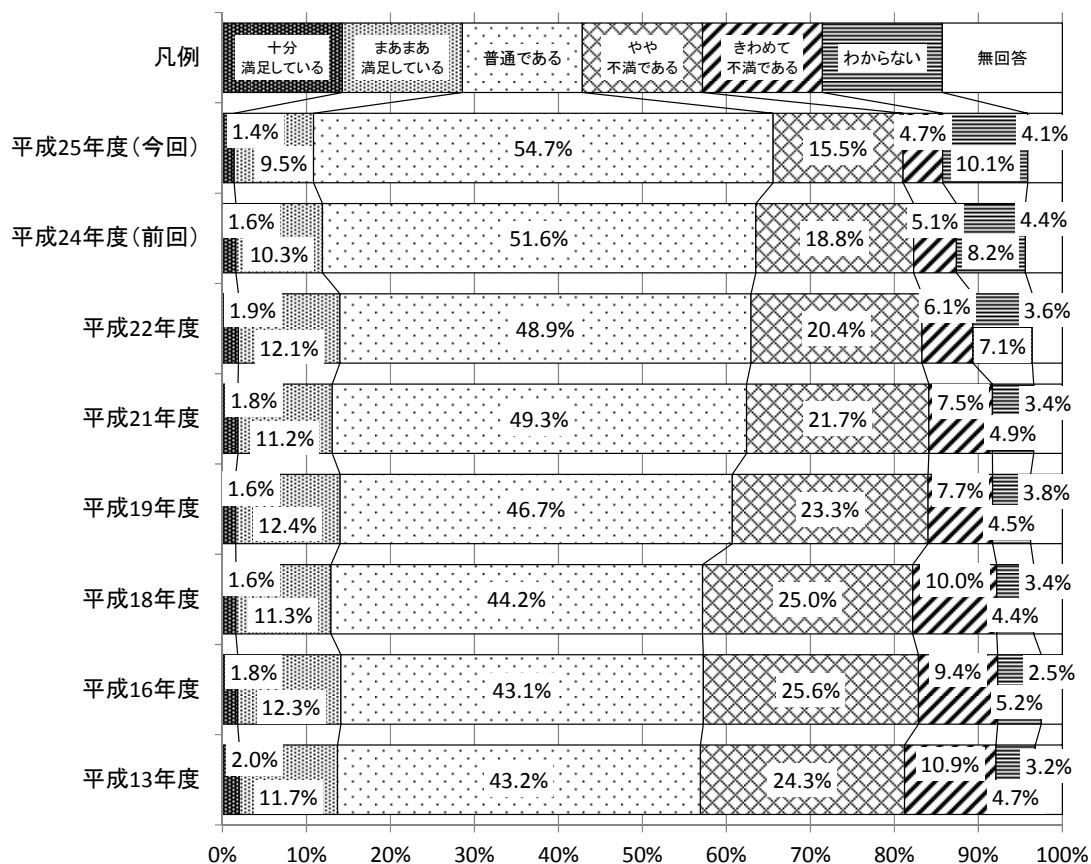
### 【まち並み、建物などまち全体の景観】



### 【事故や災害に強い安全なまち】



### 【住環境のゆとりなどの住宅事情】



## 第5節 魅力ある都市空間の形成と産業の振興

### 第5項 安全な河川に整備し、きれいな水とふれあえるようにします

めざしたい将来像：

清流と豊かな自然環境の保持に向けて、浸水被害を少なくし、川に親しめるような整備をすることで、川辺が市民の憩いの場となることを実現します。

#### 指標

緑地・河川などの自然環境に満足している人の割合（再掲）

#### (1) 指標の説明

緑や水にふれあう機会が増すことによって、これらの自然環境に対する市民の満足度も高くなると考え、緑地、河川などの自然環境に満足している人の割合を指標とします。

#### (2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「地域・態度(評価)」

※「緑地・河川などの自然環境」の項目

Q18-ケ あなたが松戸市で生活する中で、次のことについてどの程度満足しているかについて、次の各項目ごとに、あなたの考えに最も近いものをお答え下さい。（それぞれ1つに○）

項目	十分満足している	まあまあ満足している	普通である	やや不満である	きわめて不満である	わからない
ケ 緑地・河川などの自然環境	1	2	3	4	5	6

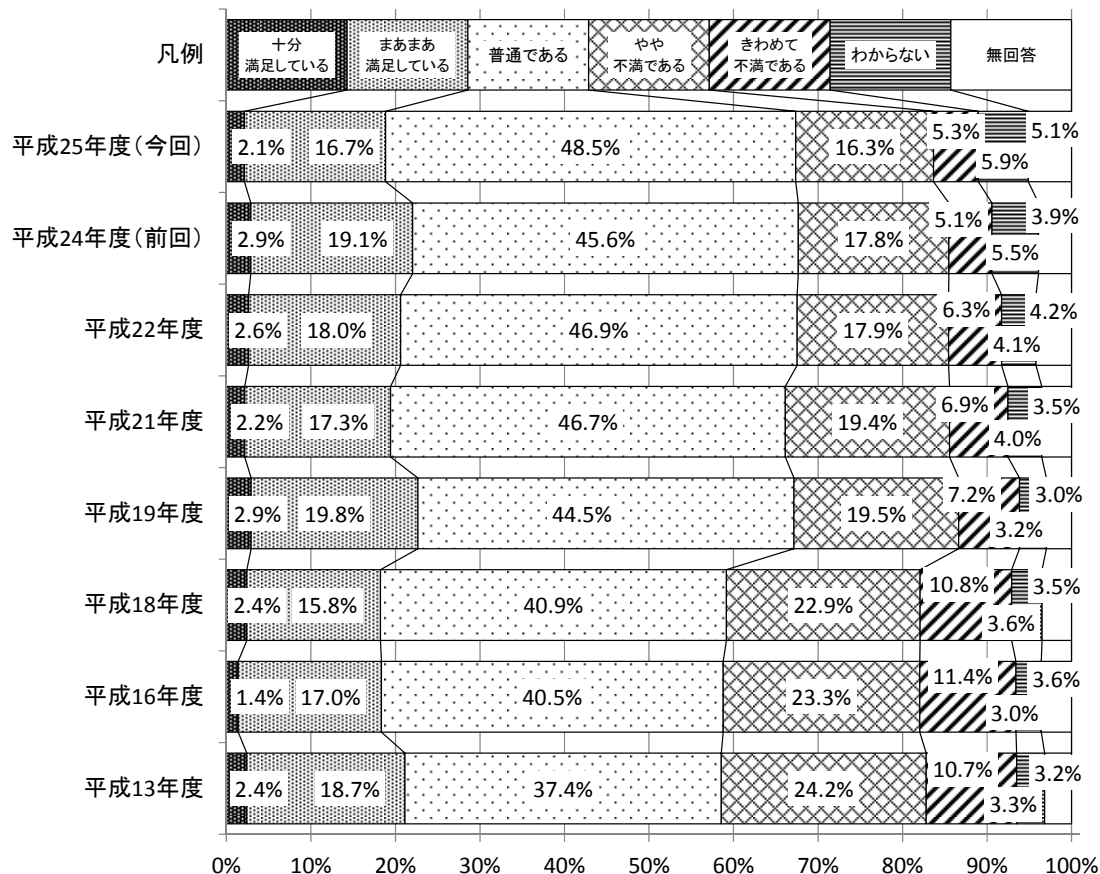
#### (3) 指標の現状

	平成13年度	平成16年度	平成18年度	平成19年度	平成21年度	平成22年度	平成24年度	平成25年度
十分満足している	2.4%	1.4%	2.4%	2.9%	2.2%	2.6%	2.9%	2.1%
まあまあ満足している	18.7%	17.0%	15.8%	19.8%	17.3%	18.0%	19.1%	16.7%
計	21.1%	18.4%	18.2%	22.7%	19.4%	20.6%	22.0%	18.8%

## (4) 指標の分析

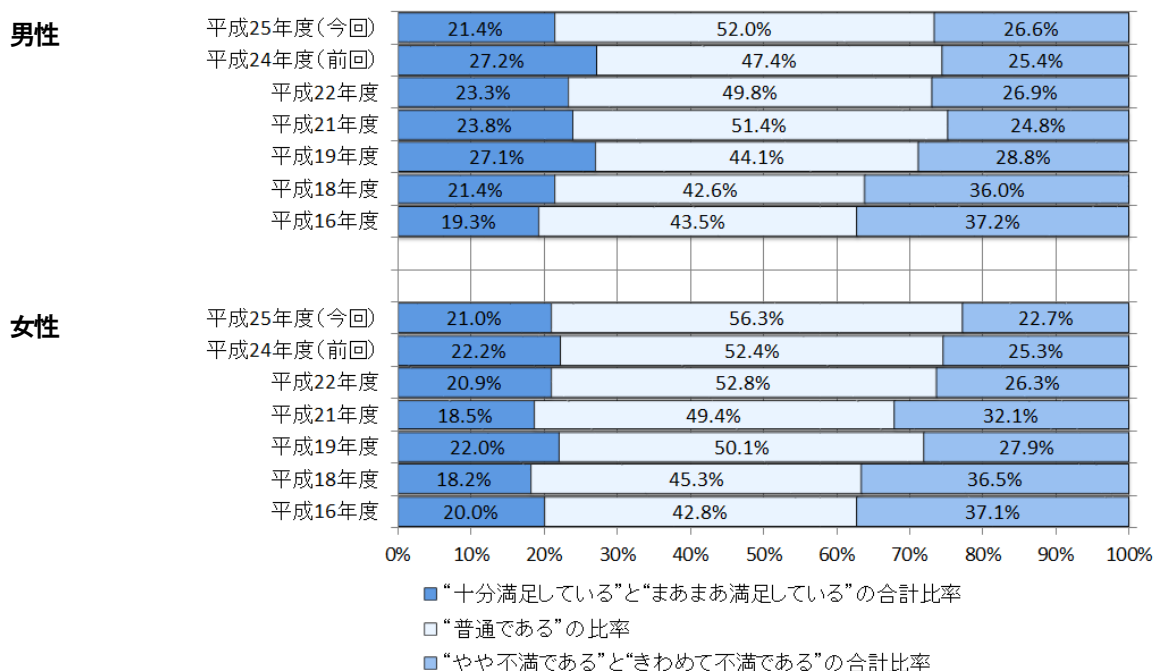
☆ **自然環境に対する満足度は18.8%と前回調査よりやや減少しています。**

緑地・河川などの自然環境に対する満足度をみると、“十分満足している”(2.1%)、“まあまあ満足している”(16.7%)をあわせた満足という回答の割合は18.8%となっています。一方で“やや不満である”(16.3%)、“きわめて不満である”(5.3%)をあわせた不満も21.6%と満足している層を上回っています。



性別でみると、女性よりも男性の方が自然環境に対して満足している割合が高くなっています。

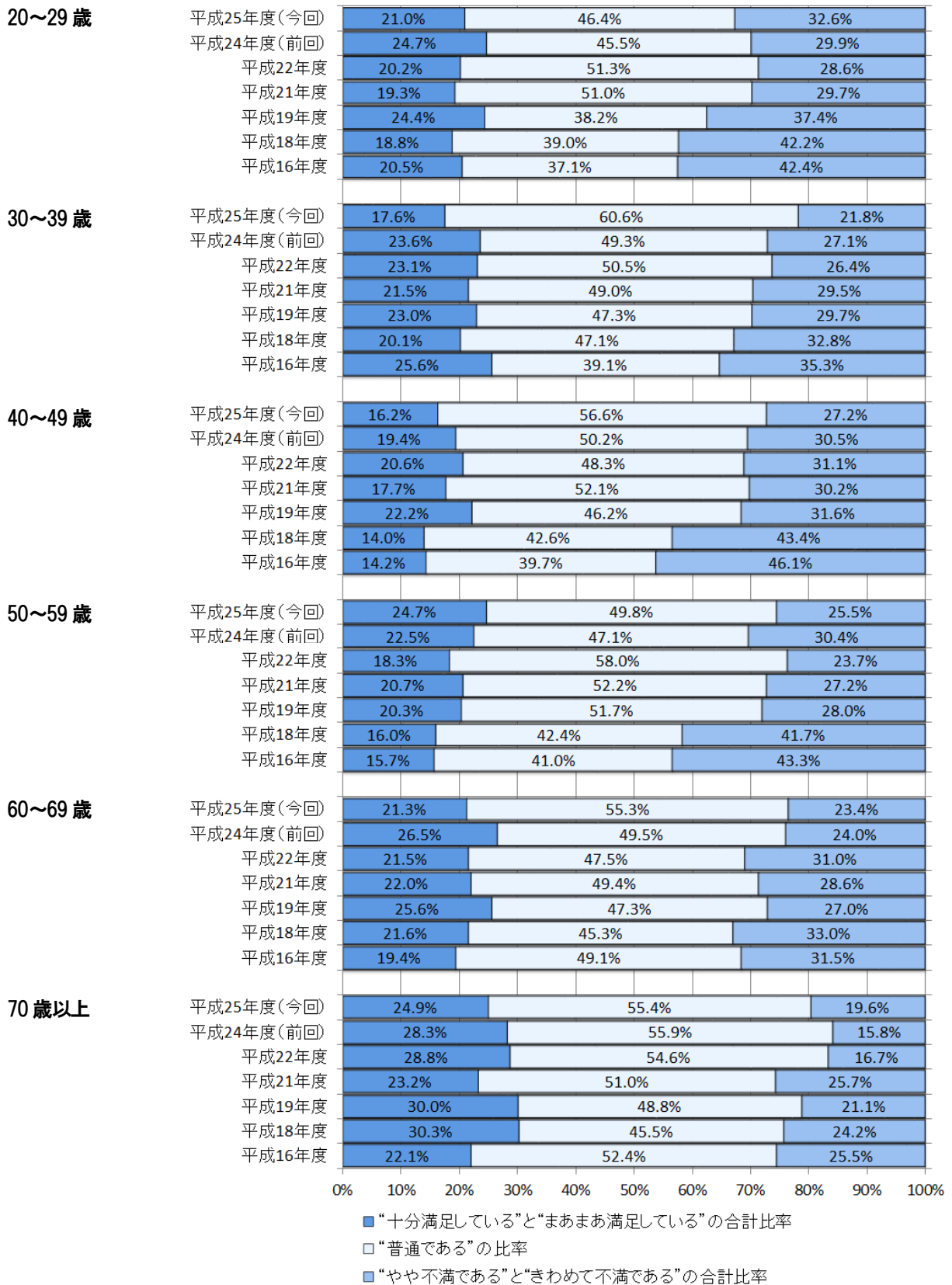
### 【自然環境×性別】





年齢別にみると、70歳以上で自然環境に対して“満足している”割合が最も高くなっています。30歳代、40歳代では、自然環境に対して“満足している”人は2割以下となっています。

【自然環境×年齢】



## 第6節 都市経営の視点に立った行政運営

### 第1項 市民ニーズに基づく行政経営を行います

めざしたい将来像：

50万人になろうとする市民が、安心して住みやすく、満足してもらえるようなまちを実現します。そのため、継続的な対話を経た力強い連携から政策が生まれる仕組みづくりをし、経営基盤を強化します。

#### 指標

住み続けたいと思う人の割合

#### (1) 指標の説明

誰もが住みやすい環境形成が実現できれば、今後も住み続けたいと思う意向が強くなると考えます。そこで、住み続けたいと思う人の割合を指標とします。

#### (2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・意向」

Q20 あなたは、これからも松戸市に住み続けたいと思いますか。(1つに○)

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| 1 住み続けたい        | 4 あまり住み続けたくない |
| 2 できることなら住み続けたい | 5 住み続けたくない    |
| 3 どちらとも言えない     |               |

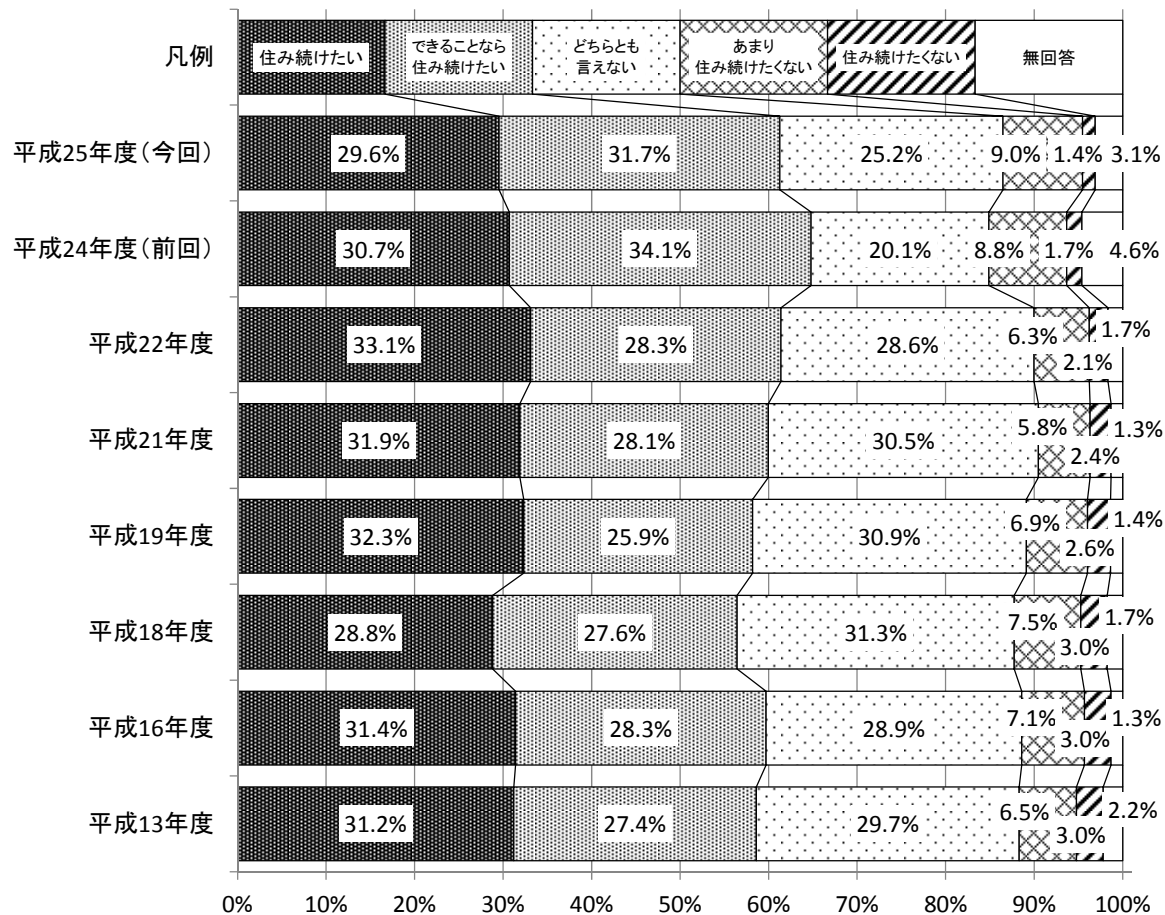
#### (3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度
住み続けたい	31.2%	31.4%	28.8%	32.3%	31.9%	33.1%	30.7%	29.6%
できることなら住み続けたい	27.4%	28.3%	27.6%	25.9%	28.1%	28.3%	34.1%	31.7%
計	58.6%	59.7%	56.4%	58.2%	60.0%	61.4%	64.8%	61.3%

## (4) 指標の分析

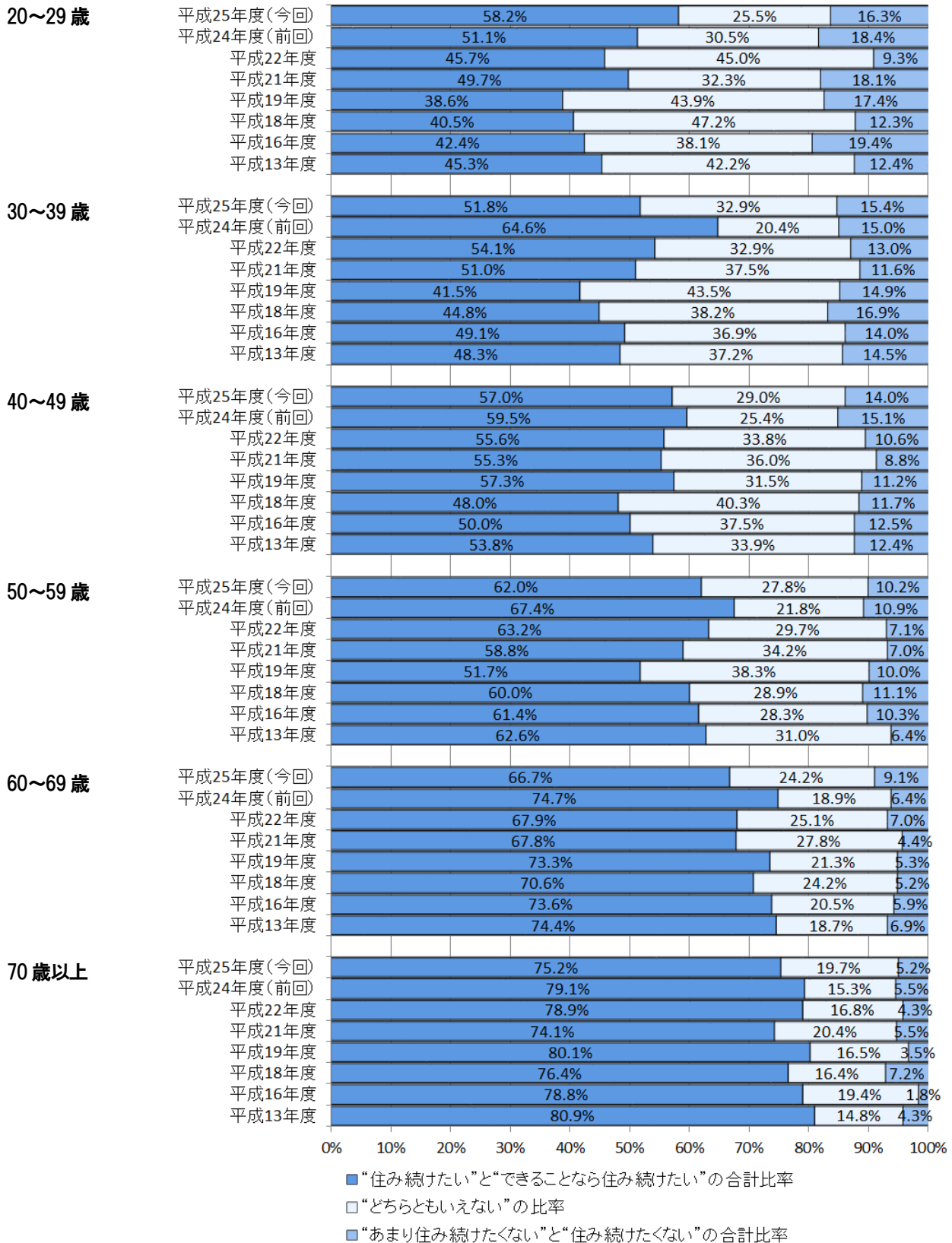
### ☆松戸市への定住意向は、6割以上が定住の意向を示しています。

“住み続けたい”との回答は29.6%と全体の約1/3を占めています。前回調査と比べ“住み続けたい”、“できることなら住み続けたい”という本市への定住意向を示す回答の割合はやや減少したものの、6割以上が定住の意向を示しています。



年齢別にみると、“住み続けたい”と“できることなら住み続けたい”という割合が、年代とともに高くなる傾向がみられます。前回調査に比べ、20歳代で“住み続けたい”と“できることなら住み続けたい”という割合が、51.1%から58.2%と7.1ポイント増えています。

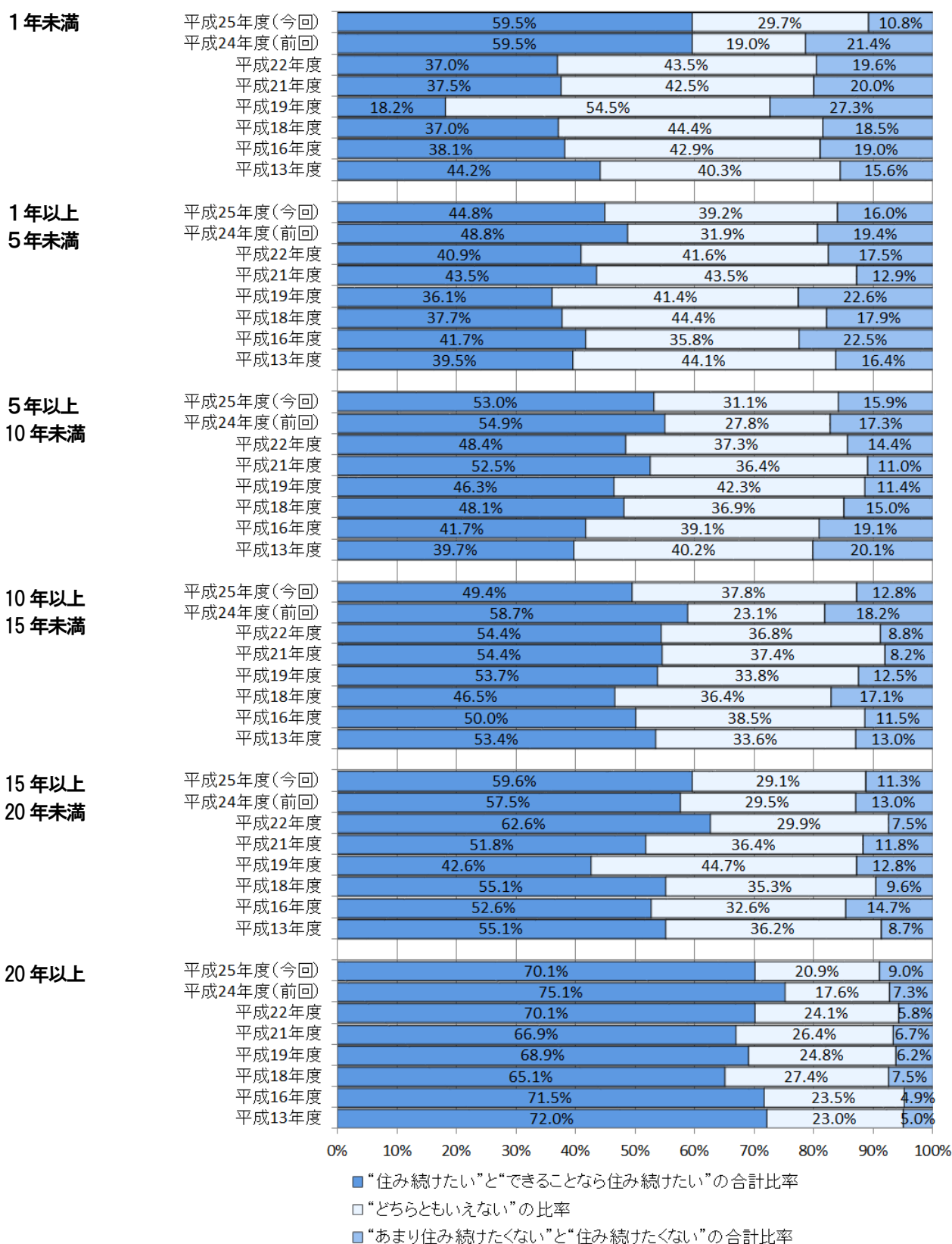
### 【定住意向×年齢】



在住年数別にみると、“住み続けたい”と“できることなら住み続けたい”の割合は、20年以上の人で70.1%と最も高く、次いで15年以上20年未満の人(59.6%)が高いという結果になりました。

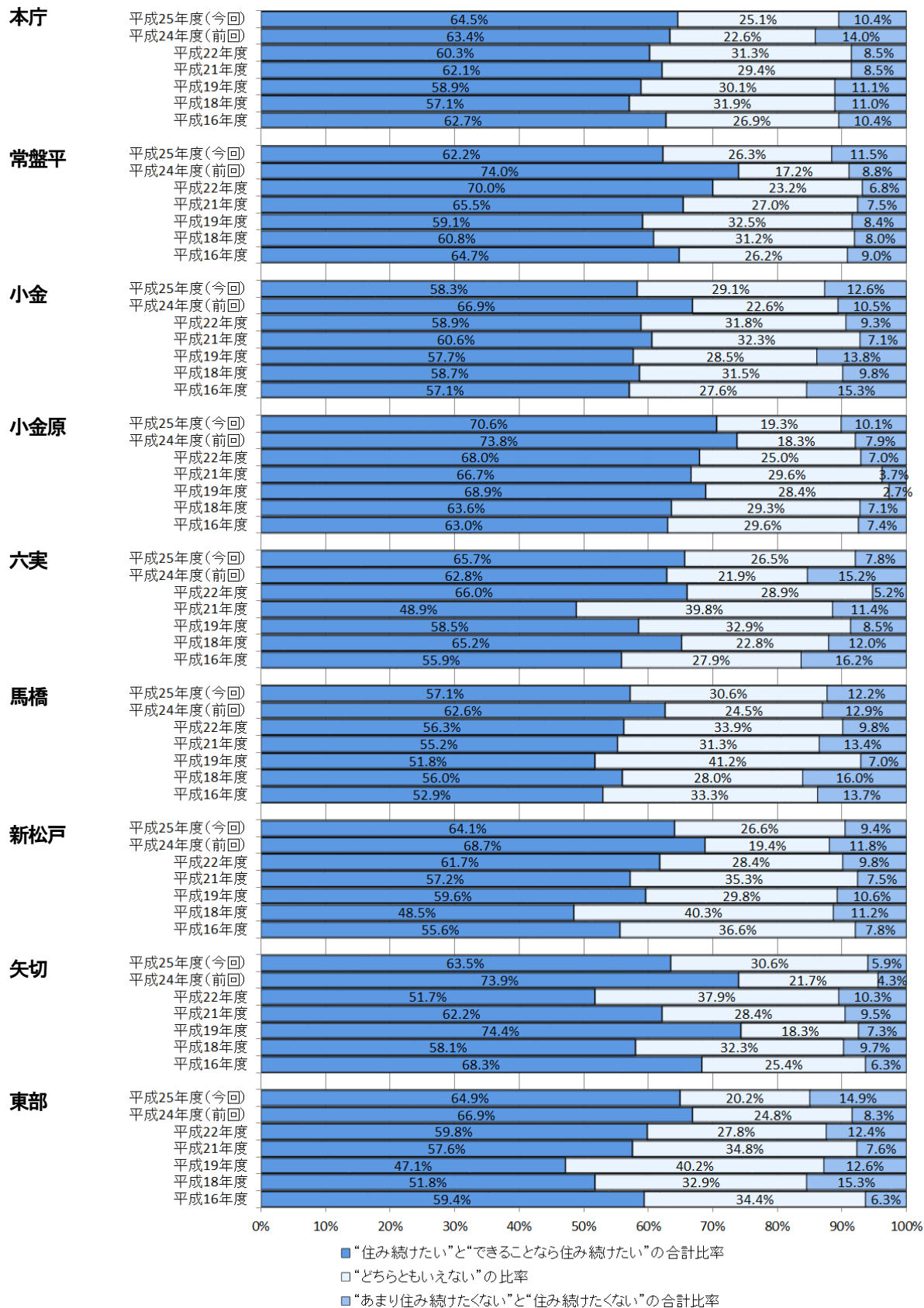
前回調査に比べ1年未満と15年以上20年未満の人以外で“住み続けたい”と“できることなら住み続けたい”の割合が減っています。

### 【定住意向×松戸市在住年数】



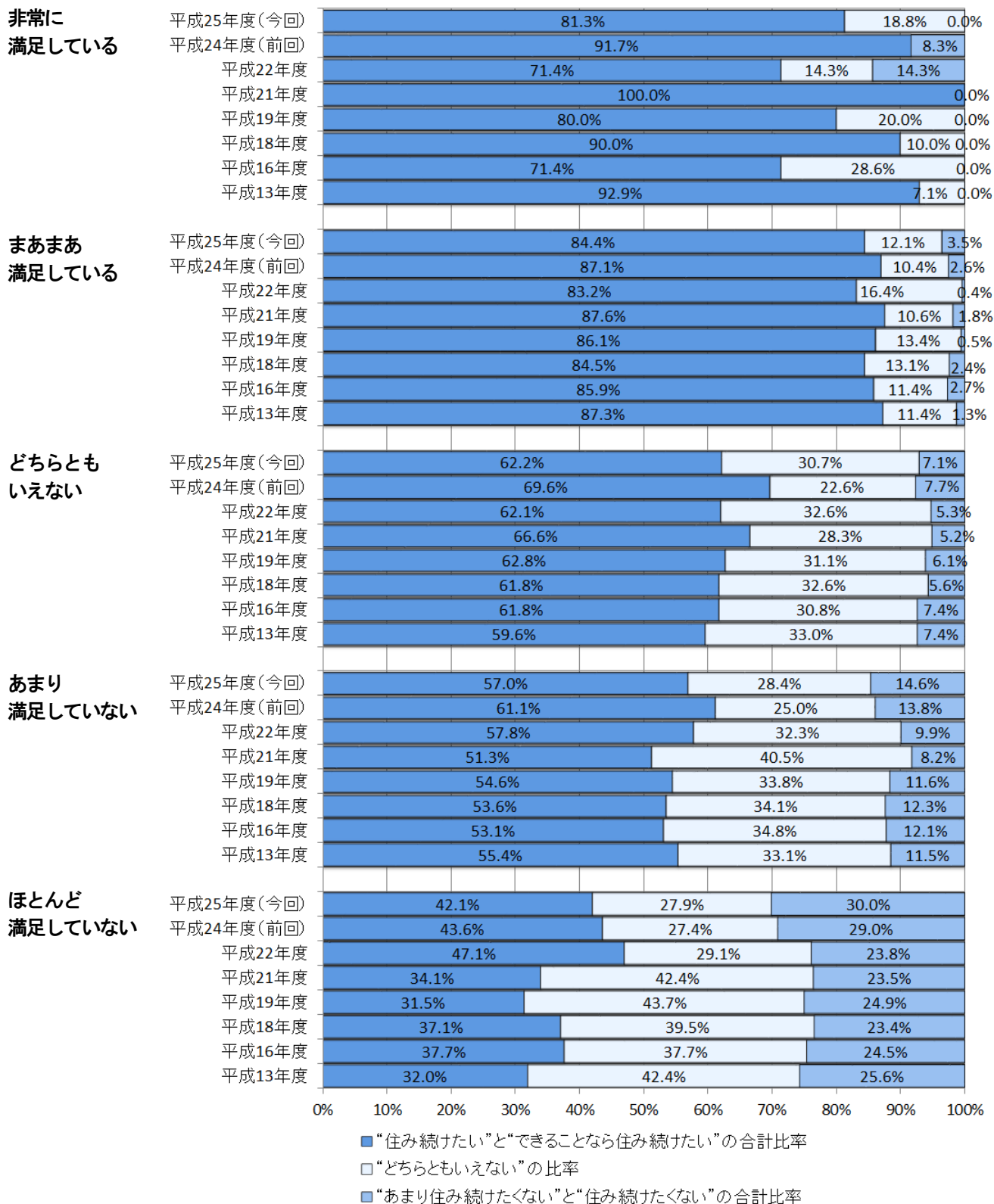
地区別にみると、小金地区、馬橋地区を除く全地区で“住み続けたい”と“できることなら住み続けたい”という割合は6割を超えています。小金原地区では“住み続けたい”と“できることなら住み続けたい”という割合が7割を超えています。

### 【定住意向×地区】



現在の行政サービスの満足度別にみると、前回調査と同様に満足度が高い人ほど住み続けたい意向が高くなる傾向となっています。また、ほとんど満足していない人では“あまり住み続けたくない”と“住み続けたくない”の合計が30.0%となっています。

【定住意向×税金の対価サービス満足度】



## 指標

行政サービスの改善度

### (1) 指標の説明

市民の満足度向上のため、行政サービスが改善されたと感じる人の割合を指標とします。

### (2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・意向」

Q17 あなたは、全体として松戸市の行政サービスについて、どのように感じていますか。次の中から、あてはまる番号1つに○をつけてください。

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| 1 以前より非常に良くなっている | 4 以前より多少悪くなっている  |
| 2 以前より多少良くなっている  | 5 以前より非常に悪くなっている |
| 3 以前と変わらない       |                  |

### (3) 指標の現状

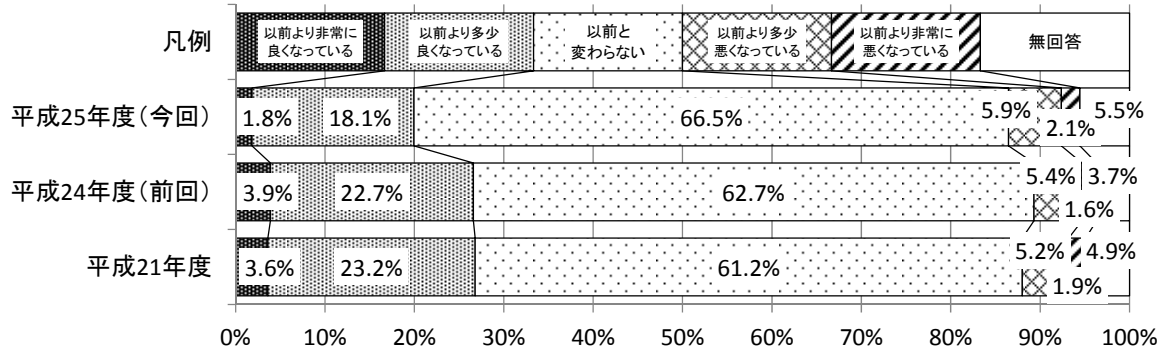
	平成 21年度	平成 24年度	平成 25年度
以前より非常に良くなっている	3.6%	3.9%	1.8%
以前より多少良くなっている	23.2%	22.7%	18.1%
計	26.8%	26.6%	20.0%



## (4) 指標の分析

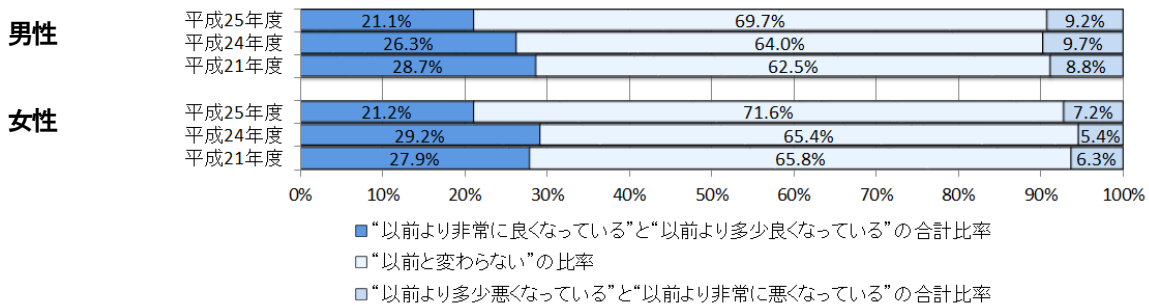
### ☆行政サービスが以前より良くなっていると感じている市民は2割と前回調査よりやや減少しています。

松戸市の行政サービスが“以前より非常に良くなっている”と“以前より多少良くなっている”と感じている人の合計は20.0%と平成24年度調査と比べ6.6ポイント低くなっています。“以前と変わらない”と感じている人は6割を超えています。



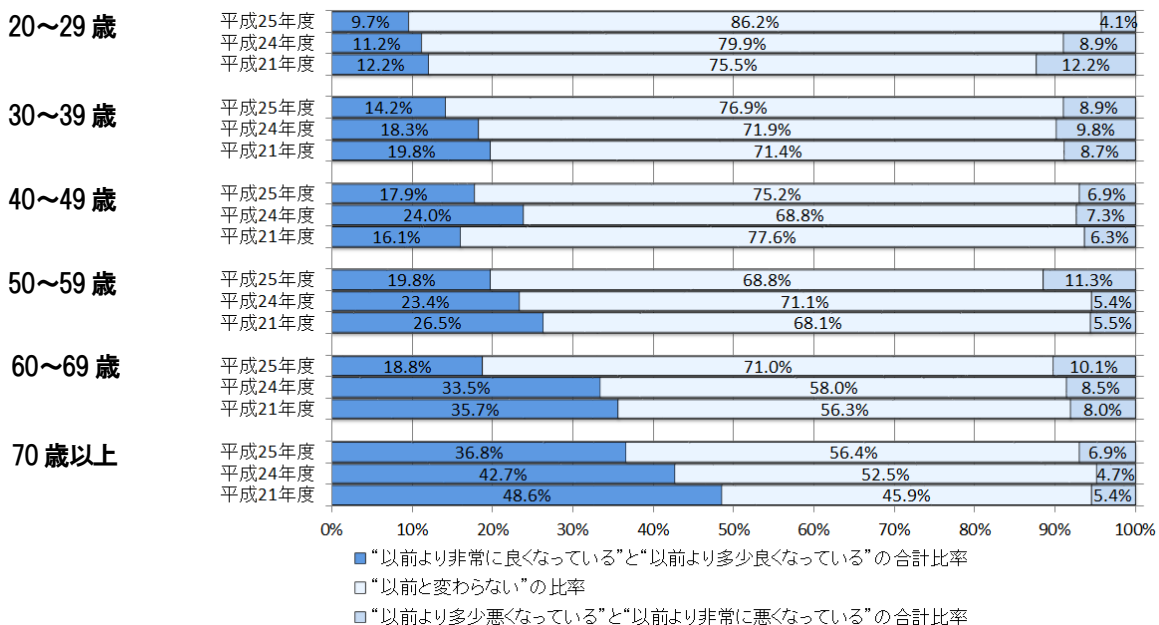
性別でみると、行政サービスが良くなっていると感じているのは男性よりも女性がやや多くなっています。女性では以前より悪くなっていると感じている人の割合が5.4%から7.2%と1.8ポイント増えています。

#### 【行政サービスの改善度×性別】



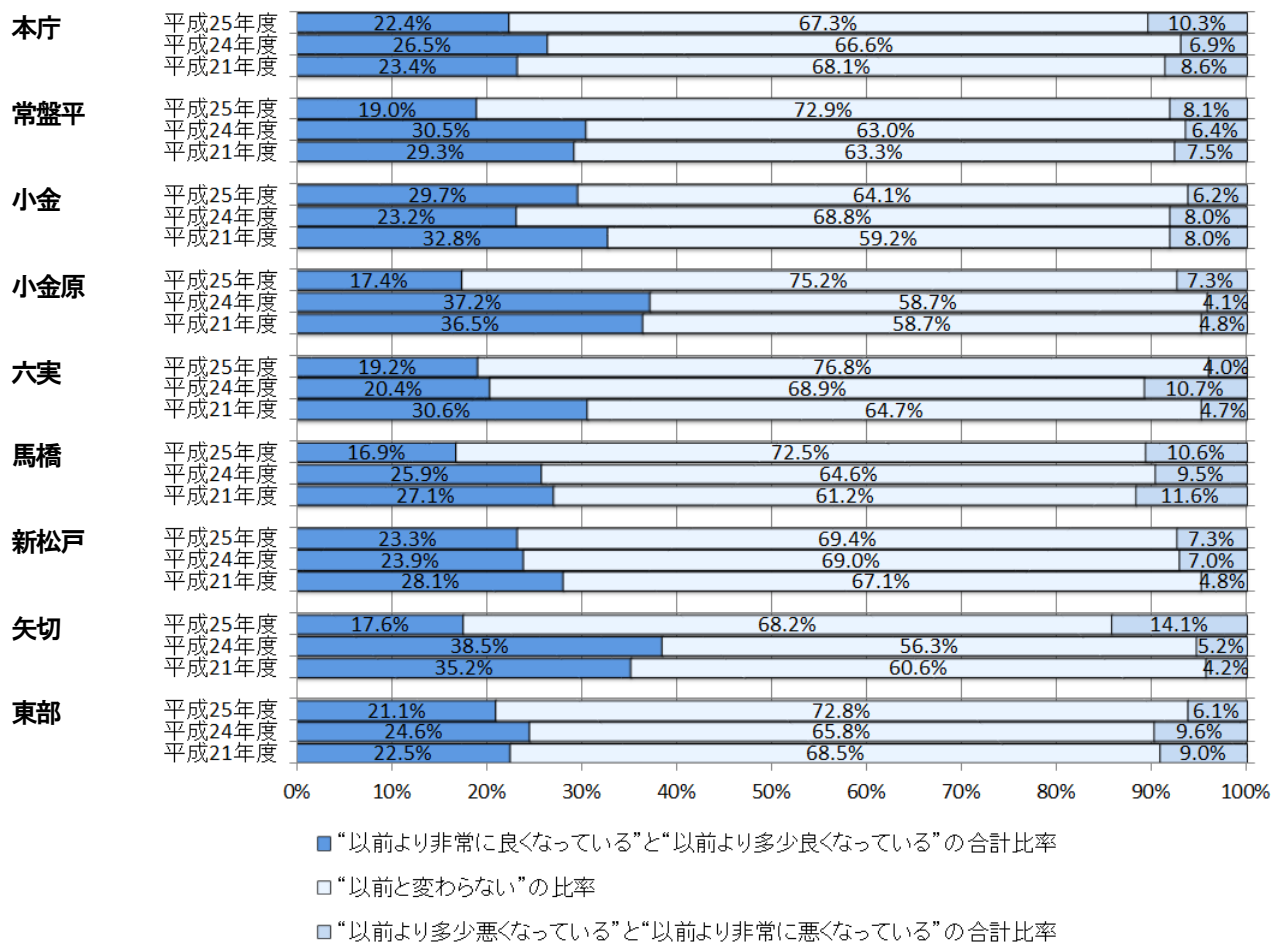
年齢別にみると、60歳代の“以前より非常に良くなっている”と“以前より多少良くなっている”と感じている人の割合が、平成24年度調査33.5%から18.8%と14.7ポイント減っています。70歳以上では“以前より良くなっている”と感じている人の割合が36.8%と他の年代に比べ多くなっています。

#### 【行政サービスの改善度×年齢】



地区別にみると、小金地区で以前より良くなっていると感じている人が 29.7%と他の地区に比べ多くなっています。また、矢切地区、馬橋地区、本庁地区で以前より悪くなっていると感じる人が 1 割を超えています。

### 【行政サービスの改善度×地区】



## 指標

行政情報入手手段に係るホームページの割合

### (1) 指標の説明

行政の取り組みに関心を持つ市民が増えれば、ホームページで松戸市の情報を入手する市民も増えると考えられます。そこで、行政情報入手手段に係るホームページの割合を指標とします。

### (2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。

F10 あなたは、松戸市の行政情報を主に何によって入手しているかお答えください。(2つまで○)

- |   |               |
|---|---------------|
| 1 テレビ・ラジオ                                     | 7 各種パンフレット    |
| 2 新聞・雑誌                                       | 8 町会などでの集会や会合 |
| 3 広報誌(広報まつど)                                  | 9 市が主催する説明会など |
| 4 松戸市のホームページ                                  | 10 特にない       |
| 5 松戸市安全安心メール                                  | 11 その他        |
| 6 ツイッター、フェイスブック等のSNS<br>(ソーシャル・ネットワーキング・サービス) | ( )           |

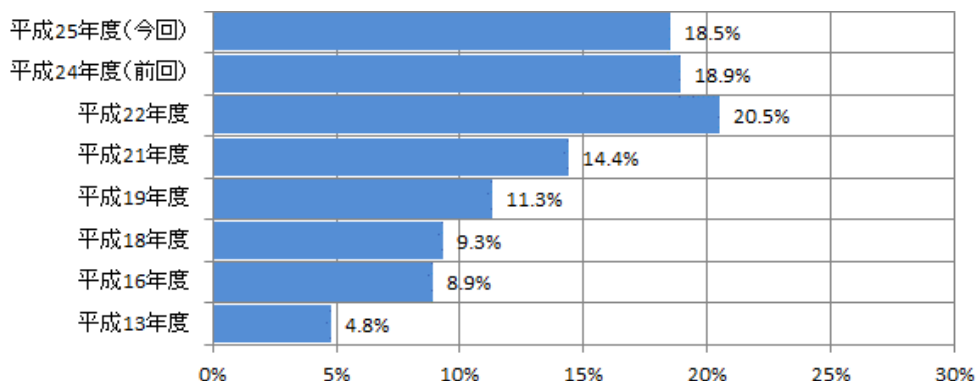
### (3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度
松戸市のホームページ	4.8%	8.9%	9.3%	11.3%	14.4%	20.5%	18.9%	18.5%

## (4) 指標の分析

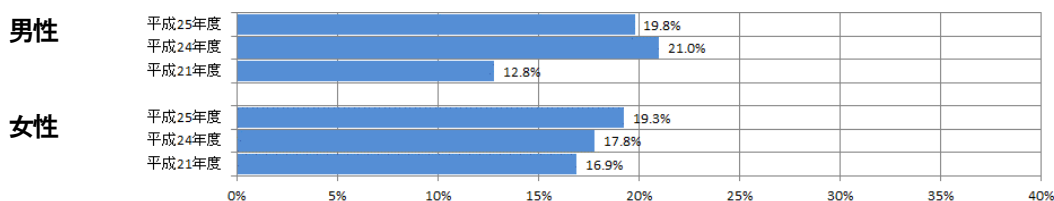
### ☆ホームページから松戸市の情報を入手している割合は2割弱となっています。

ホームページから松戸市の情報を入手している人は18.5%で前回調査に比べやや減少しています。



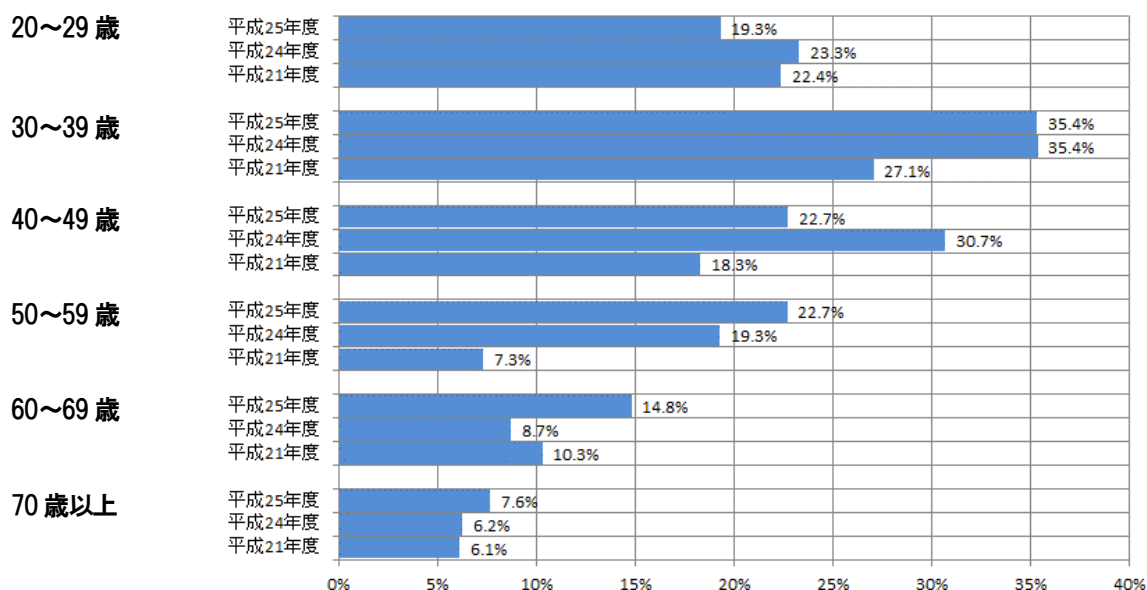
性別でみると、女性よりも男性の方がホームページから松戸市の情報を入手している人がわずかに多くなっています。女性では平成24年度調査に比べホームページから松戸市の情報を入手している人の割合が増えています。

#### 【行政情報の入手手段×性別】



年齢別にみると、30歳代ではホームページから松戸市の情報を入手している人が3割を超えています。60歳代では前回調査に比べ8.7%から14.8%と6.1ポイント増えています。

#### 【行政情報の入手手段×年齢】



## 指標

インターネットを利用している人の割合

### (1) 指標の説明

インターネットを利用できる環境にある人は、その双方向性を活かして、活発に外部とのコミュニケーションを図ることにより、社会における活動範囲が拡大するとともに、生活の質の改善にもつながっていくと考えられます。そこでインターネットを利用している人の割合を指標とします。

### (2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・行動」

Q11 あなたは、ご自身でインターネット（携帯電話やスマートフォンによるネット利用を含む）を利用しますか。（1つに○）

- |                |               |
|----------------|---------------|
| 1 毎日のように利用している | 4 ほとんど利用していない |
| 2 時々利用している     | 5 全く利用していない   |
| 3 たまに利用している    |               |

併せて、付問(前問で1～3を選択した人のみ)により活用内容と利用媒体についても聞いている。

SQ1 あなたは、インターネットをどのようなことに活用していますか。（あてはまる番号全てに○）

- |  |
|--|
| 1 電子メールの送信によく利用している                                    |
| 2 メールマガジンやニュースなどのメール情報をよく受信している                        |
| 3 いろいろなホームページを開いて情報を入手している                             |
| 4 チケット予約やショッピング、オークション参加、株売買など買い物や取引<br>きをしている         |
| 5 自分自身でホームページやブログ（フェイスブックやツイッター含む）などを利用し、情<br>報を発信している |
| 6 その他（ ）   |

SQ2 あなたのインターネット利用は、次の中のどれにあてはまりますか。（1つに○）

- |                                   |                                   |
|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 1 パソコンからのみ利用している                  | 4 携帯電話・スマートフォンが主で、補助的にパソコンを利用している |
| 2 パソコンが主で、補助的に携帯電話・スマートフォンを利用している | 5 携帯電話・スマートフォンからのみ利用している          |
| 3 パソコン、携帯電話・スマートフォンの利用がほぼ半々である    | 6 その他（ ）                          |

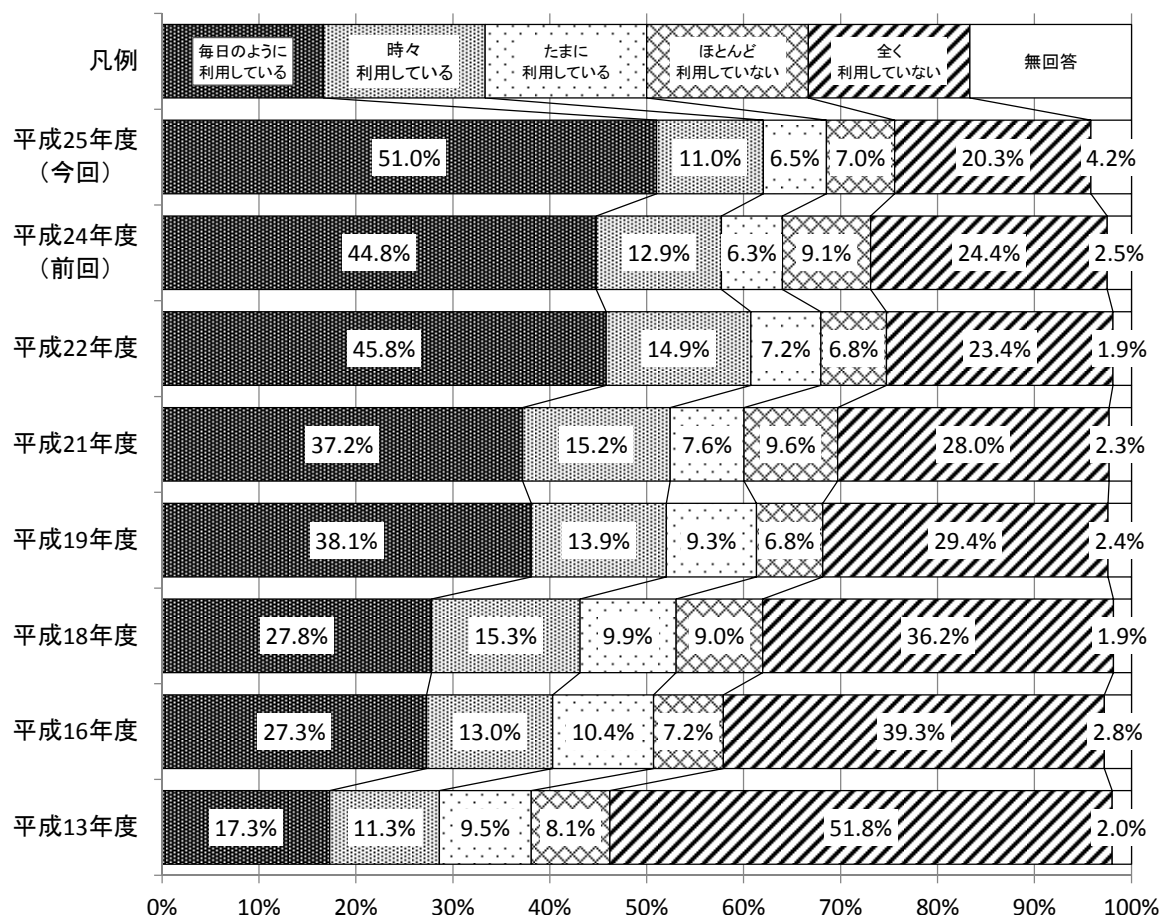
### (3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度
毎日のように利用している	17.3%	27.3%	27.8%	38.1%	37.2%	45.8%	44.8%	51.0%
時々利用している	11.3%	13.0%	15.3%	13.9%	15.2%	14.9%	12.9%	11.0%
たまに利用している	9.5%	10.4%	9.9%	9.3%	7.6%	7.2%	6.3%	6.5%
計	38.1%	50.7%	53.0%	61.3%	60.0%	68.0%	64.0%	68.5%

### (4) 指標の分析

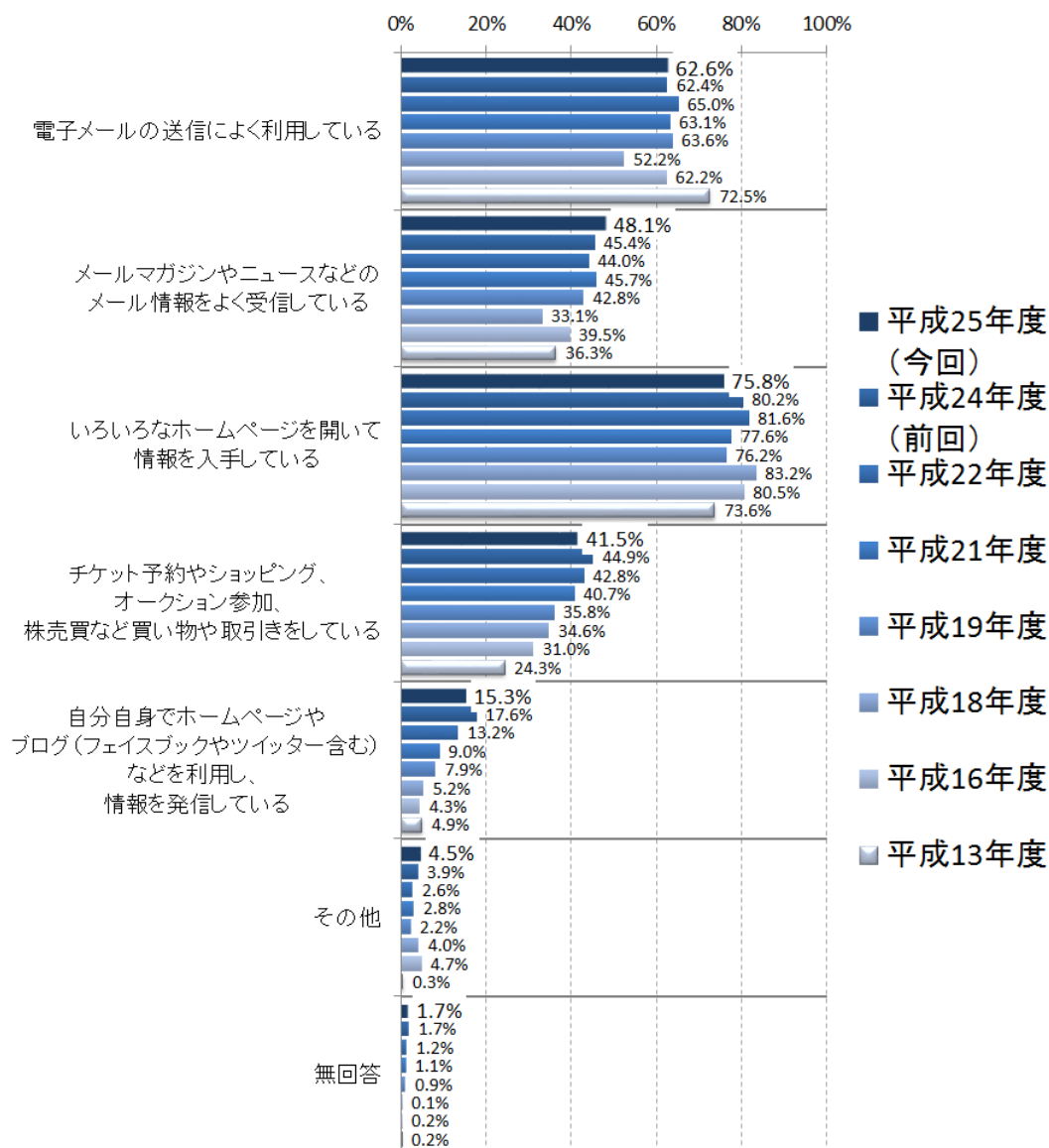
☆インターネット利用者は前回調査に比べやや増加し6割以上を占め、“毎日のように利用している”という利用頻度の高い人は5割を占めています。

インターネットの利用状況を見ると、“毎日のように利用している”との回答が51.0%で最も多くなっており、前回調査と比べると回答の割合がやや増加しています。“時々利用している”(11.0%)、“たまに利用している”(6.5%)とあわせると、68.5%がインターネットを利用していると回答しています。

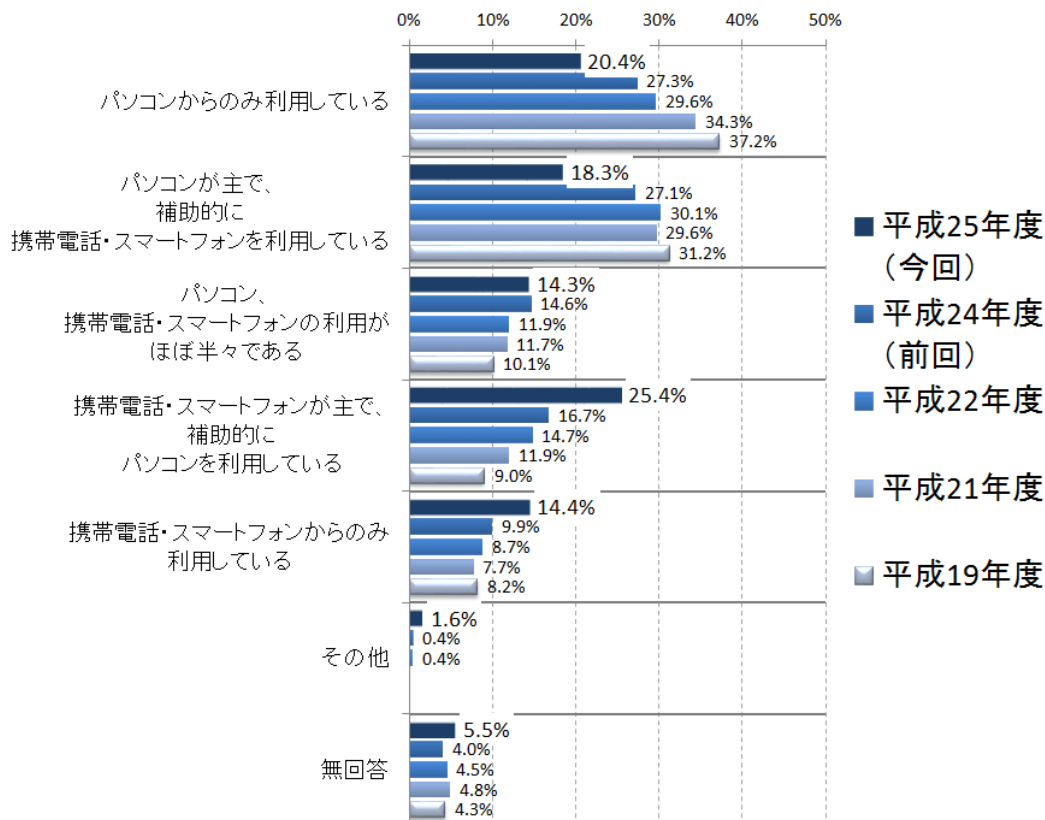


インターネット利用者の利用目的は前回調査と同様に“いろいろなホームページを開いて情報を入手している” (75.8%)が最も多く、次いで“電子メールの送信によく利用している” (62.6%)となっています。

“メールマガジンやニュースなどのメール情報を良く受信している”への回答は前回調査の 45.4%から 48.1%と増加しています。

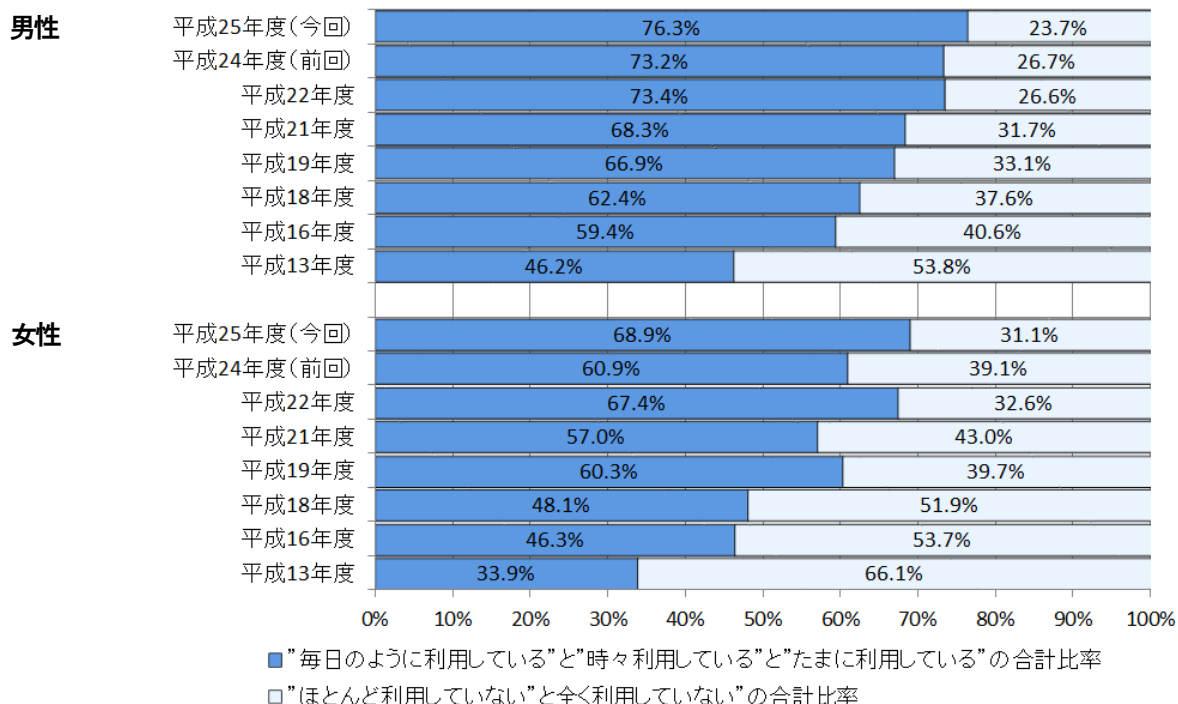


インターネット利用者のネットにアクセスする主な媒体についてみると“パソコンからのみ利用している”と回答する人の割合は徐々に減少しています。逆に“携帯電話・スマートフォンが主で補助的にパソコンを利用している”と回答する人の割合は増えています。



性別でみると、前回調査と同様に女性よりも男性の方が利用している人の割合が多くなっています。女性では前回調査に比べ 60.9%から 68.9%と 8.0 ポイント増加しており、経年変化をみるとインターネットを利用している人は増加傾向にあります。

### 【インターネット利用×性別】





年齢別にみると、前回調査と同様に若い年齢層ほどインターネットを利用している人の割合が高い傾向にあります。経年変化をみると、50歳以上の年代でもインターネットを利用している割合が徐々に増えてきています。

### 【インターネット利用×年齢】

